富良野市

障がい福祉に関するアンケート調査

結果報告書

令和４年５月

富良野市

目　　次

Ⅰ　調査の概要 1
１　調査の概要 1
（１）調査目的 1
（２）調査対象及び調査方法 1
（３）配布数及び回収結果 1
２　本調査報告書の基本的な事項 1
（１）数値の基本的な取り扱いについて 1
Ⅱ　調査結果 2
１　回答者について 2
（１）回答者 2
（２）回答者の性別 2
（３）回答者の年齢 3
（４）手帳の種類 3
（５）障がい等の種類 4
（６）配偶者の有無 5
（７）一緒に暮らしている人 6
２　日常生活について 8
（１）日常生活における介助の必要性 8
（２）主な介助者 9
（３）主な介助者の性別 10
（４）主な介助者の年齢 11
（５）主な介助者の健康状態 12
（６）介助者が介助できない場合の対応 13
３　保健・医療について 15
（１）現在受けている医療的ケア 15
（２）通院状況 17
（３）医療を受ける上で困っていること 18
４　教育について 20
（１）通園、通学の状況 20
（２）現在の通園、通学先 21
（３）望ましい障がいのある児童・生徒の就学環境 21
（４）学校等での生活を送る上での問題点 22
５　生活環境について 23
（１）現在の暮らし方 23
（２）将来地域で生活したいか 24
（３）地域で生活するためにあると良い支援 25
（４）１週間の外出の頻度 27

（５）外出する際の主な同伴者 28
（６）外出の目的 29
（７）外出する時に困ること 30
６　雇用・就業などについて 32
（１）平日の日中の過ごし方 32
（２）勤務形態 34
（３）今後収入を得る仕事をしたいか 35
（４）仕事に就くために職業訓練などを受けたいか 36
（５）障がい者の就労支援として必要なこと 37
７　障がい福祉サービスなどについて 39
（１）障害支援区分の認定を受けているか 39
（２）介護認定を受けているか 40
（３）サービスの利用について 41
(1) 現在の利用状況 41
(2) 今後の利用意向 44
８　相談相手について 47
（１）悩みや困ったことの相談先 47
（２）障がいや福祉サービス等に関する情報の入手先 49
９　権利擁護について 51
（１）差別を受けたり嫌な思いをしたりすること 51
（２）差別を受けたり嫌な思いをしたりした場所 52
（３）どのような理由で差別や嫌な思いをしたか 54
（４）障害者差別解消法について 56
（５）成年後見制度について 57
10　安心・安全について 58
（１）火事や地震等の緊急時に一人で避難できるか 58
（２）ハザードマップや避難場所の確認をしているか 59
（３）家族が不在の場合等に近所に助けてくれる人がいるか 60
（４）火災や地震等の災害時に困ること 61
11　市への要望について 63
（１）富良野市は生活しやすいか 63
（２）今後市にしてほしいと思うこと 64

Ⅰ　調査の概要

１　調査の概要

（１）調査目的

本調査は、新たな「障がい者計画」の策定にあたり、市民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画の基礎資料とすることを目的に実施した。

（２）調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証所持者及び特別児童扶養手当受給者、難病交通費申請者、障害福祉サービス利用者
配布数	1,700 票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和４年３月
調査地域	富良野市全域

（３）配布数及び回収結果

配布数	1,700
有効回収数	713
有効回収率	41.9%

２　本調査報告書の基本的な事項

（１）数値の基本的な取り扱いについて

①比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下２位を四捨五入して算出している。従って、合計が 100%を上下する場合もある。

②基数となるべき実数は、“ｎ＝○○○”として掲載し、各比率はｎを 100%として算出している。

③質問の終わりに【複数回答】とある問は、１人の回答者が２つ以上の回答を出しても良い問である。従って、各回答の合計比率は 100%を超える場合がある。

Ⅱ　調査結果

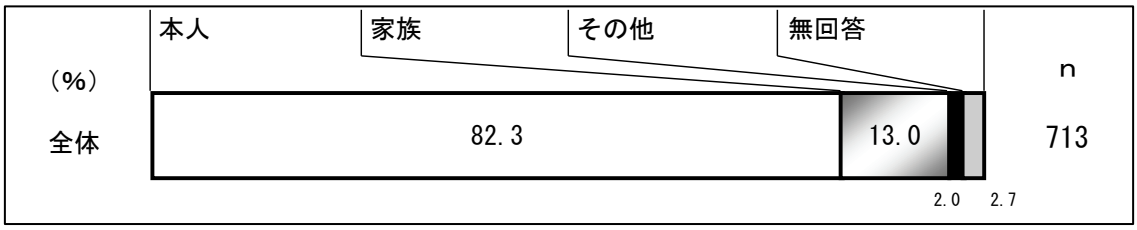
１　回答者について

（１）回答者

問１　お答えいただくのは、どなたですか。

本調査の記入者は、「本人」が 82.3%、「家族」が 13.0%、「その他」が 2.0%となっている。

図表　回答者（全体）

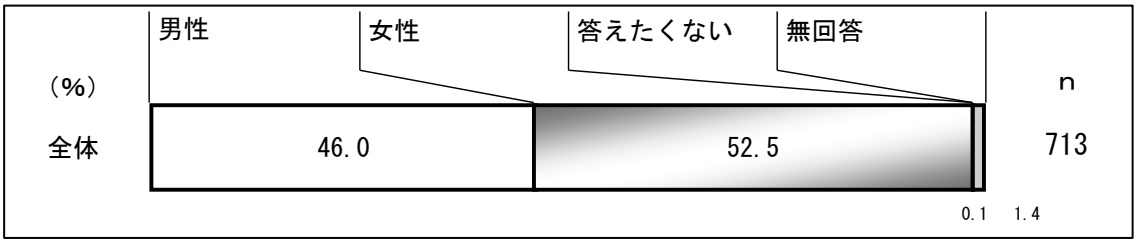


（２）回答者の性別

問２　あなたの性別はどちらですか。

性別は、「女性」が 52.5%、「男性」が 46.0%、「答えたくない」が 0.1%となっている。

図表　回答者の性別（全体）

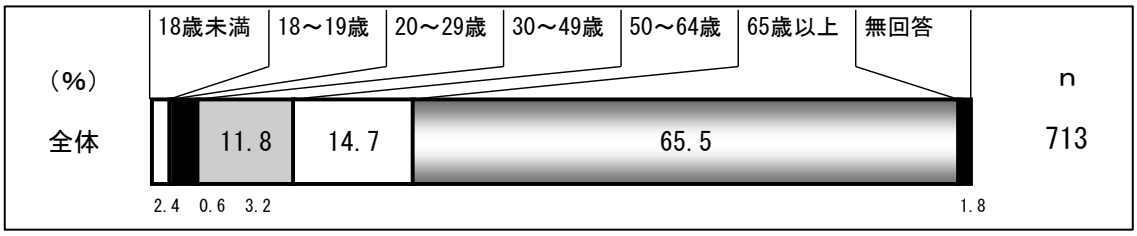


（３）回答者の年齢

問３　あなたの年齢はおいくつですか。

回答者の年齢は、「65 歳以上」が 65.5%、「50～64 歳」が 14.7%、「30～49 歳」が 11.8%、「20～29 歳」が 3.2%、「18 歳未満」が 2.4%、「18～19 歳」が 0.6%となっている。

図表　回答者の年齢（全体）

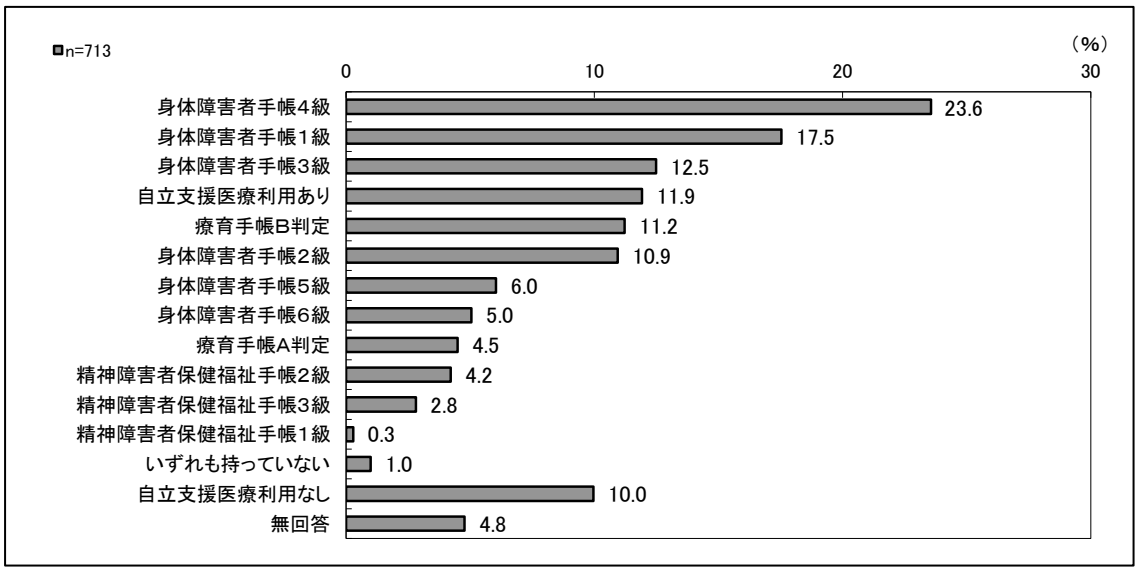


（４）手帳の種類

問４　あなたがお持ちの手帳や障がいについて、あてはまるものに○をしてください。
【複数回答】

手帳の種類については「身体障害者手帳４級」（23.6%）が最も多く、次いで「身体障害者手帳１級」（17.5%）、「身体障害者手帳３級」（12.5%）、「自立支援医療利用あり」（11.9%）、「療育手帳Ｂ判定」（11.2%）、「身体障害者手帳２級」（10.9%）、「身体障害者手帳５級」（6.0%）、「身体障害者手帳６級」（5.0%）、「療育手帳Ａ判定」（4.5%）となっている。なお、「いずれも持っていない」は 1.0%となっている。

図表　手帳の種類（全体／複数回答）



（５）障がい等の種類

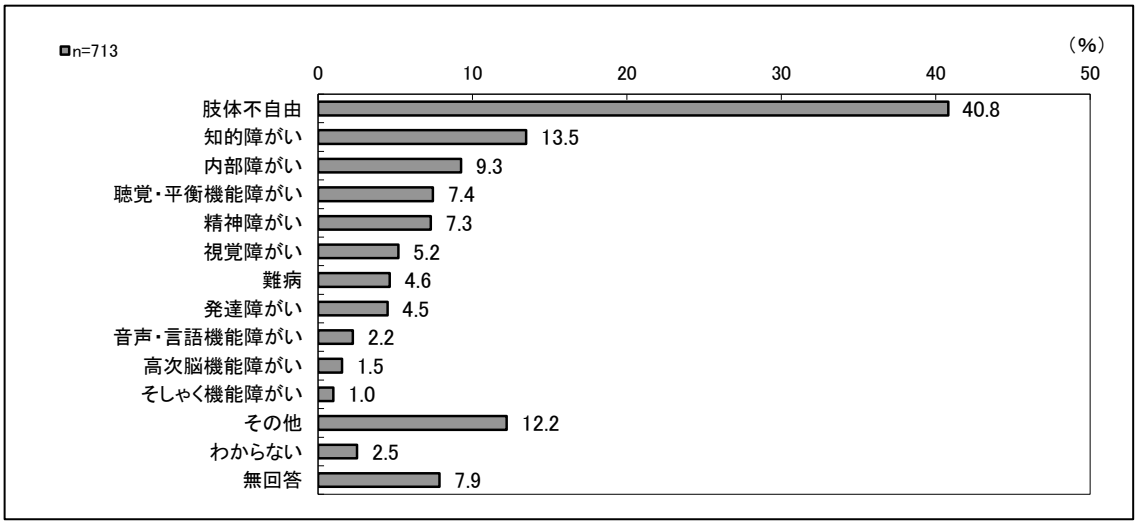
問５　障がい等の種類についてお答えください。【複数回答】

▼

● 「肢体不自由」が第１位。「知的障がい」、「内部障がい」などが続く。

障がい等の種類については、「肢体不自由」（40.8％）が最も多く、次いで「知的障がい」（13.5％）、「内部障がい」（9.3％）、「聴覚・平衡機能障がい」（7.4％）、「精神障がい」（7.3％）、「視覚障がい」（5.2％）、「難病」（4.6％）、「発達障がい」（4.5％）などとなっている。

図表　障がい等の種類（全体／複数回答）



（６）配偶者の有無

問６　あなたに配偶者はいますか。

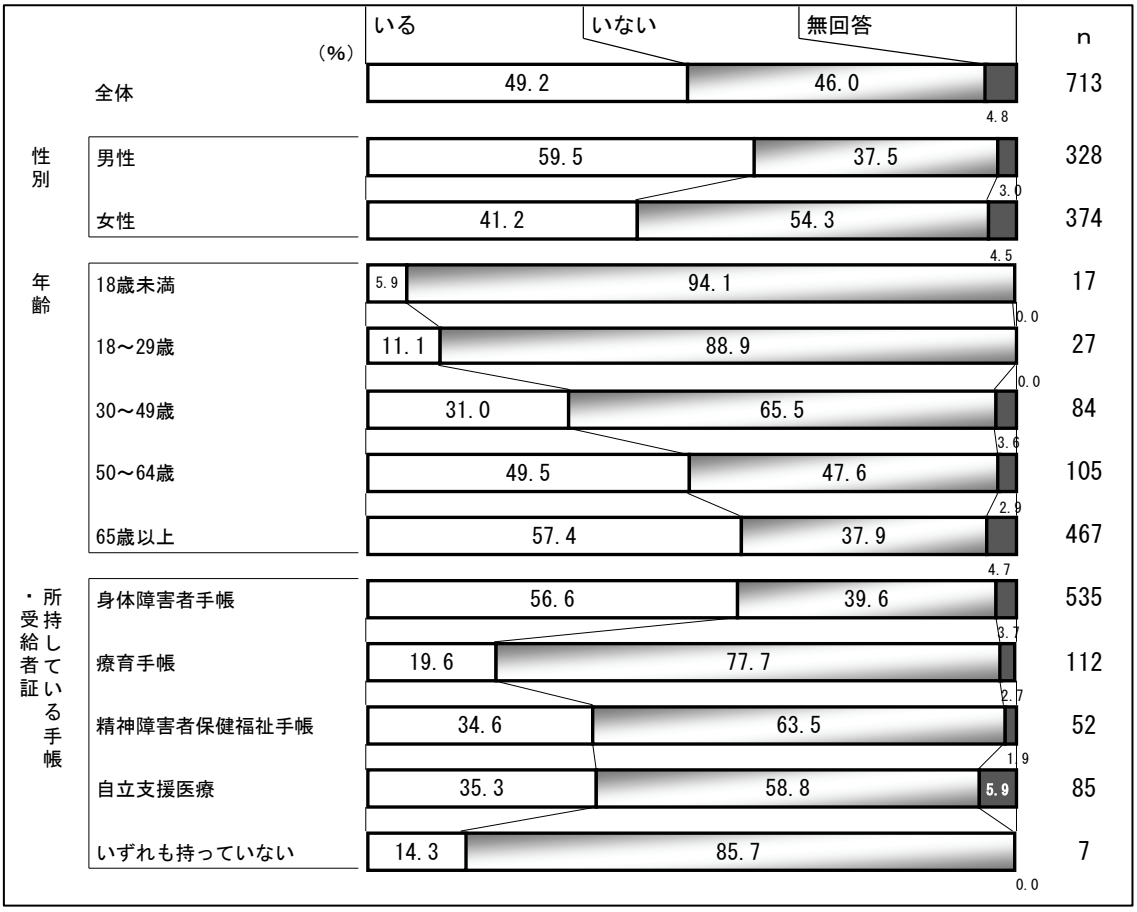
▼

● 「いる」が「いない」を上回る。

配偶者の有無については、「いる」が 49.2%、「いない」が 46.0%となっている。

性別でみると、男性では「いる」が 59.5%となっているのに対し、女性では 41.2%ととなっている。

図表　配偶者の有無（全体・性別・年齢・障がい種別）



（７）一緒に暮らしている人

問７　あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。【複数回答】

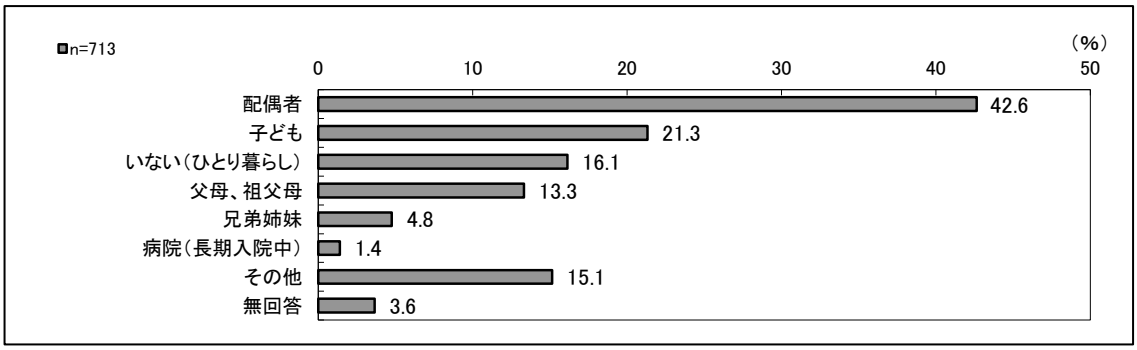
▼

● 「配偶者」が他を大きく引き離して第１位。

現在一緒に暮らしている人についてたずねたところ、「配偶者」（42.6%）が最も多く、次いで「子ども」(21.3%)、「いない（ひとり暮らし）」(16.1%)、「父母、祖父母」(13.3%)、「兄弟姉妹」（4.8%）などとなっている。

年齢でみると、50 歳以上では「配偶者」が第１位となっているのに対し、49 歳以下では「父母、祖父母」が第１位となっている。

図表　一緒に暮らしている人（全体／複数回答）



図表　一緒に暮らしている人（全体・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		配偶者 42.6	子ども 21.3	いない（ひとり暮らし） 16.1
性別	男性	配偶者 53.7	子ども 20.4	父母、祖父母 15.5
	女性	配偶者 34.0	子ども 22.5	いない（ひとり暮らし） 21.4
年齢	18 歳未満	父母、祖父母 100.0	兄弟姉妹 52.9	
	18～29 歳	父母、祖父母 70.4	兄弟姉妹 33.3	配偶者／いない（ひとり暮らし） 3.7
	30～49 歳	父母、祖父母 33.3	配偶者 22.6	いない（ひとり暮らし） 15.5
	50～64 歳	配偶者 44.8	父母、祖父母 22.9	子ども 21.0
	65 歳以上	配偶者 50.5	子ども 25.5	いない（ひとり暮らし） 18.2
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	配偶者 51.8	子ども 25.4	いない（ひとり暮らし） 17.8
	療育手帳	父母、祖父母 42.0	兄弟姉妹 18.8	配偶者 8.0
	精神障害者保健福祉手帳	父母、祖父母／配偶者 26.9		いない（ひとり暮らし） 21.2
	自立支援医療	父母、祖父母 27.1	配偶者 23.5	いない（ひとり暮らし） 18.8
	いずれも持っていない	いない（ひとり暮らし） 28.6	配偶者／子ども 14.3	

２　日常生活について

（１）日常生活における介助の必要性

問８　あなたは、日常生活で次のことをどのようにしていますか。①～⑫の生活動作についてそれぞれお答えください。

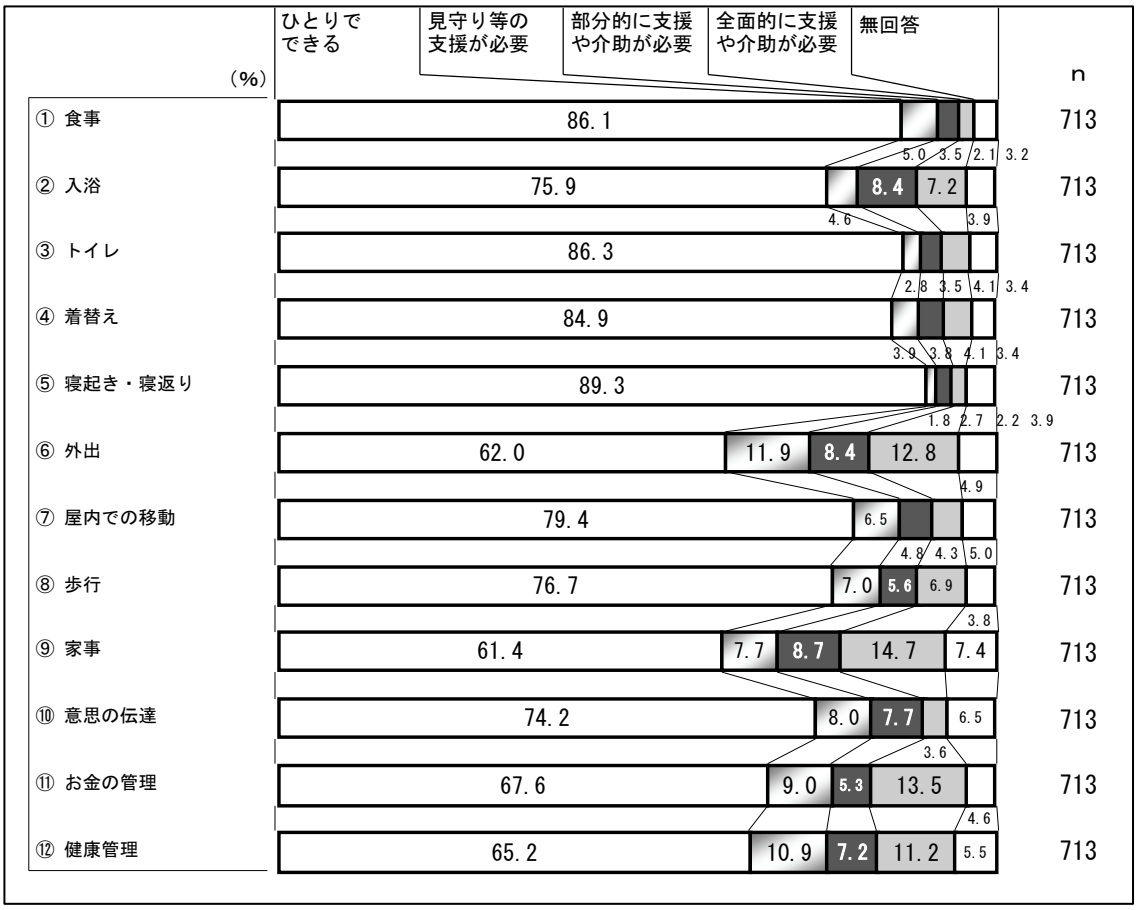
▼

● 介助の必要性が高い項目は、「外出」、「家事」、「健康管理」。

日常生活における介助の必要性については、以下のとおりとなっている。

⑥外出、⑨家事、⑪お金の管理、⑫健康管理では比較的介助の必要性が高い行動となっている。

図表　日常生活について（全体）



（２）主な介助者

【問 8-1 から問 8-5 までは、問８で「２．見守り等の支援が必要」「３．部分的に支援や介助が必要」「４．全面的に支援や介助が必要」と答えた項目があった方にお聞きします。】
問 8-1　あなたの主な介助者（支援者）はどなたですか。

▼

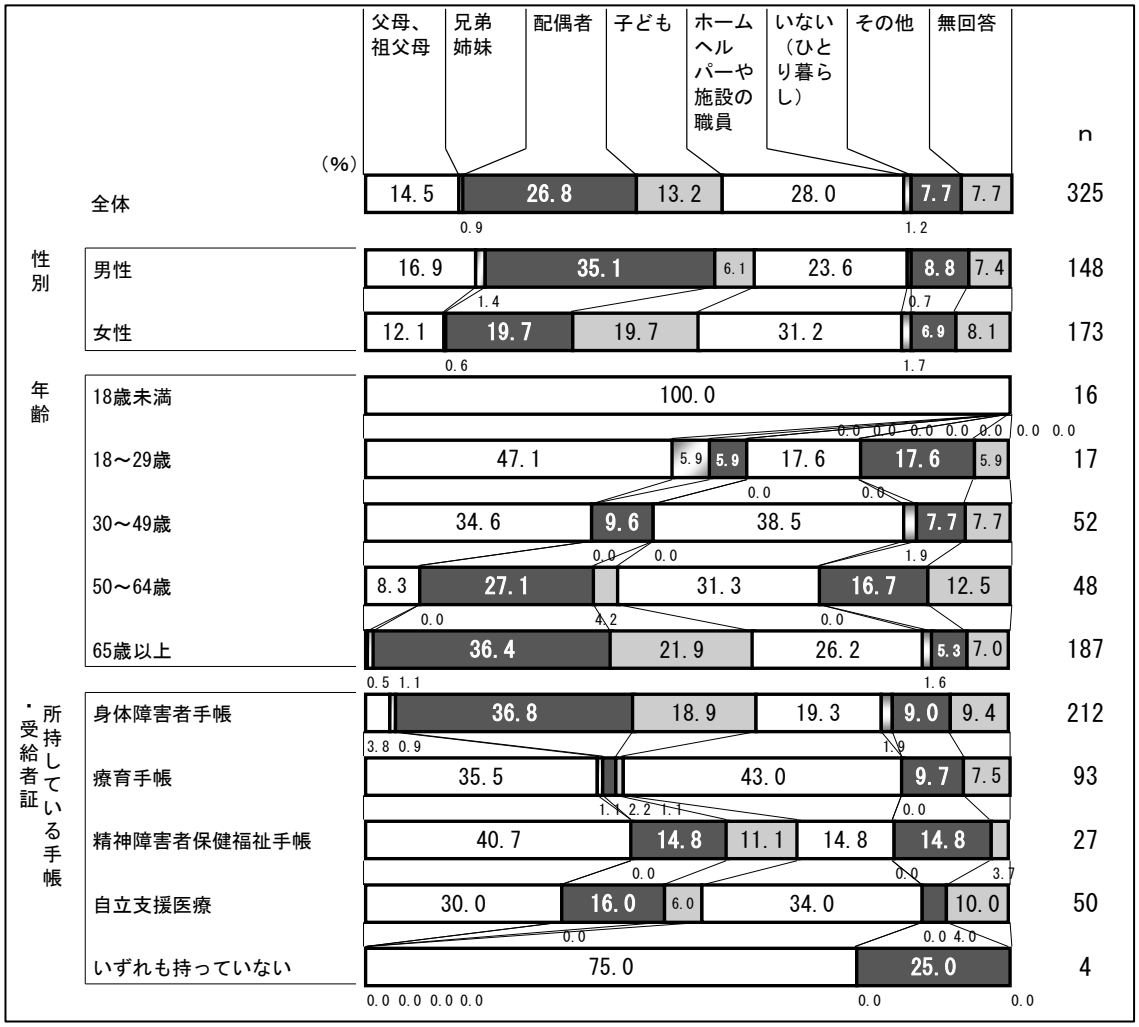
● 「ホームヘルパーや施設の職員」、「配偶者」がともに３割弱を占める。

問８で「２．見守り等の支援が必要」「３．部分的に支援や介助が必要」「４．全面的に支援や介助が必要」と答えた項目があった人（325 人・全体の 45.6%）に、主な介助者についてたずねたところ、「ホームヘルパーや施設の職員」が 28.0%、「配偶者」が 26.8%、「父母、祖父母」が 14.5%、「子ども」が 13.2%となっている。

性別でみると、男性では「配偶者」が 35.1%を占めるのに対し、女性では「ホームヘルパーや施設の職員」が 31.2%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「配偶者」の割合が高くなっている。

図表　主な介助者（全体・性別・年齢・障害種別）



（３）主な介助者の性別

【問 8-1 から問 8-5 までは、問８で「２．見守り等の支援が必要」「３．部分的に支援や介助が必要」「４．全面的に支援や介助が必要」と答えた項目があった方にお聞きします。】
問 8-2　あなたを介助（支援）してくれる方の性別はどちらですか。

▼

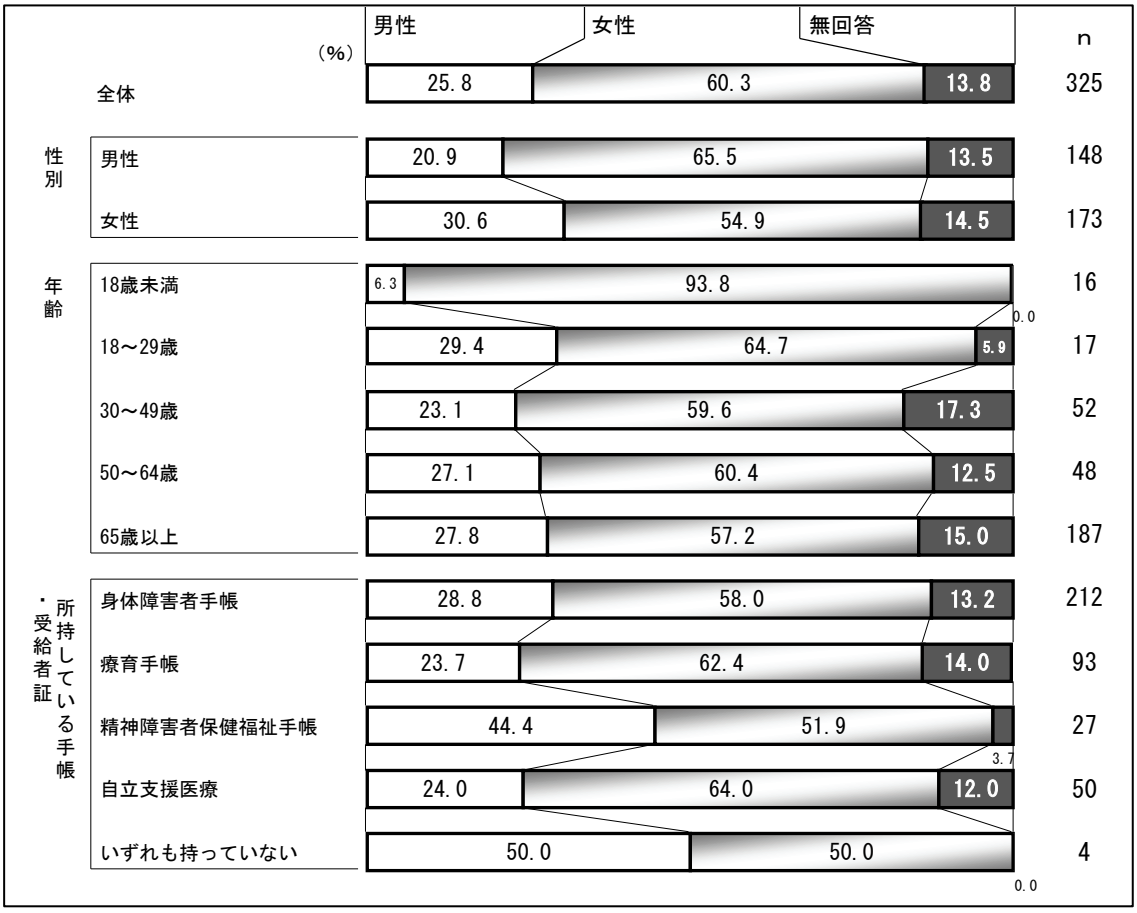
● 「女性」が６割強、男性が２割台半ばを占める。

主な介助者の性別については、「女性」が 60.3%、「男性」が 25.8%となっている。

年齢でみると、18 歳未満では「女性」が 93.8%と他の年齢層よりも高くなっている。

所持している手帳・受給者証でみると、精神障害者保健福祉手帳では「男性」が 44.4%と他の属性よりも高くなっている。

図表　主な介助者の性別（全体・性別・年齢・障害種別）



（４）主な介助者の年齢

【問 8-1 から問 8-5 までは、問８で「２．見守り等の支援が必要」「３．部分的に支援や介助が必要」「４．全面的に支援や介助が必要」と答えた項目があった方にお聞きします。】
問 8-3　あなたを介助（支援）してくれる方の年齢はおいくつですか。

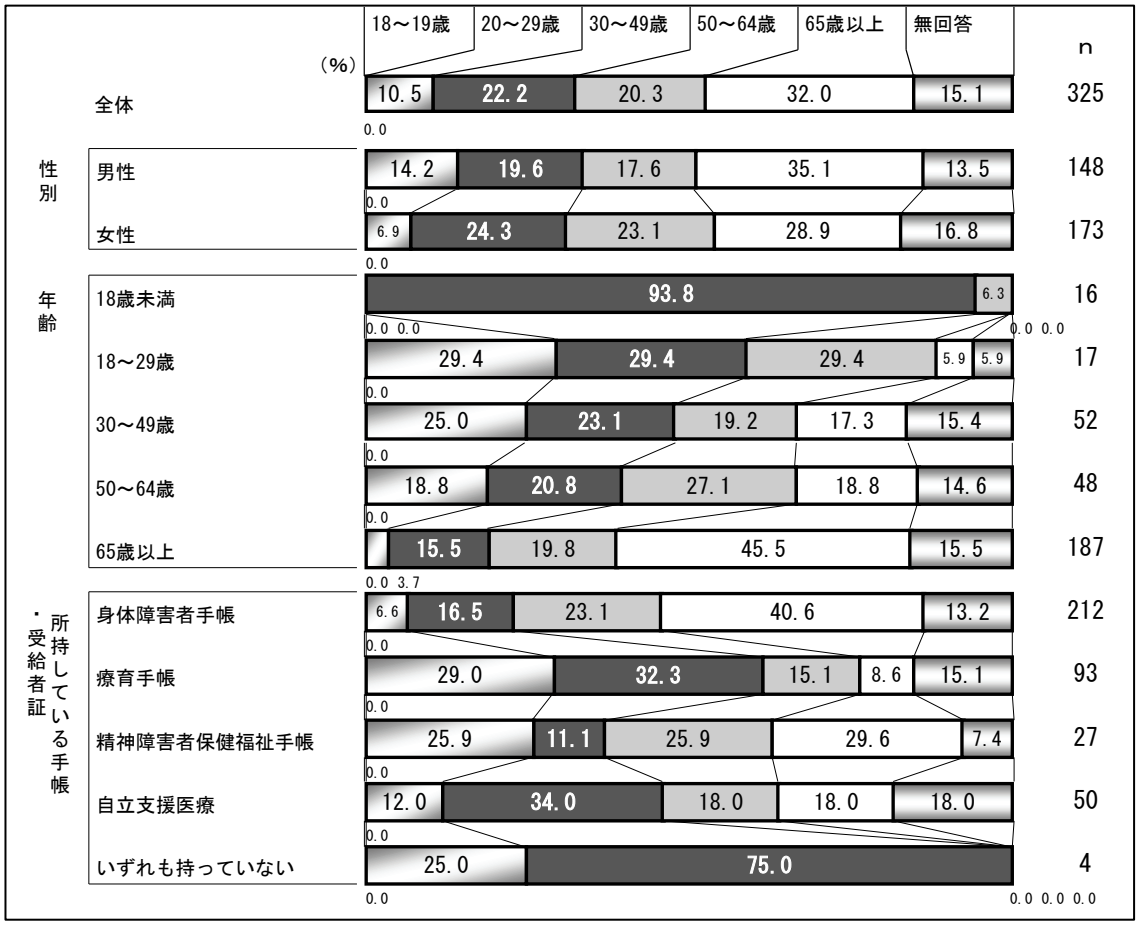
▼

● 「65 歳以上」が３割強、「30～49 歳」、「50～64 歳」が２割強を占める。

主な介助者の年齢は、「65 歳以上」が 32.0%、「30～49 歳」が 22.2%、「50～64 歳」が 20.3%、「20～29 歳」が 10.5%となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、身体障害者手帳と自立支援医療では他の属性よりも主な介助者が高齢化している傾向がうかがえる。

図表　主な介助者の年齢（全体・性別・年齢・障害種別）



（５）主な介助者の健康状態

【問 8-1 から問 8-5 までは、問８で「２．見守り等の支援が必要」「３．部分的に支援や介助が必要」「４．全面的に支援や介助が必要」と答えた項目があった方にお聞きします。】
問 8-4　あなたを介助（支援）してくれる方の健康状態はいかがですか。

▼

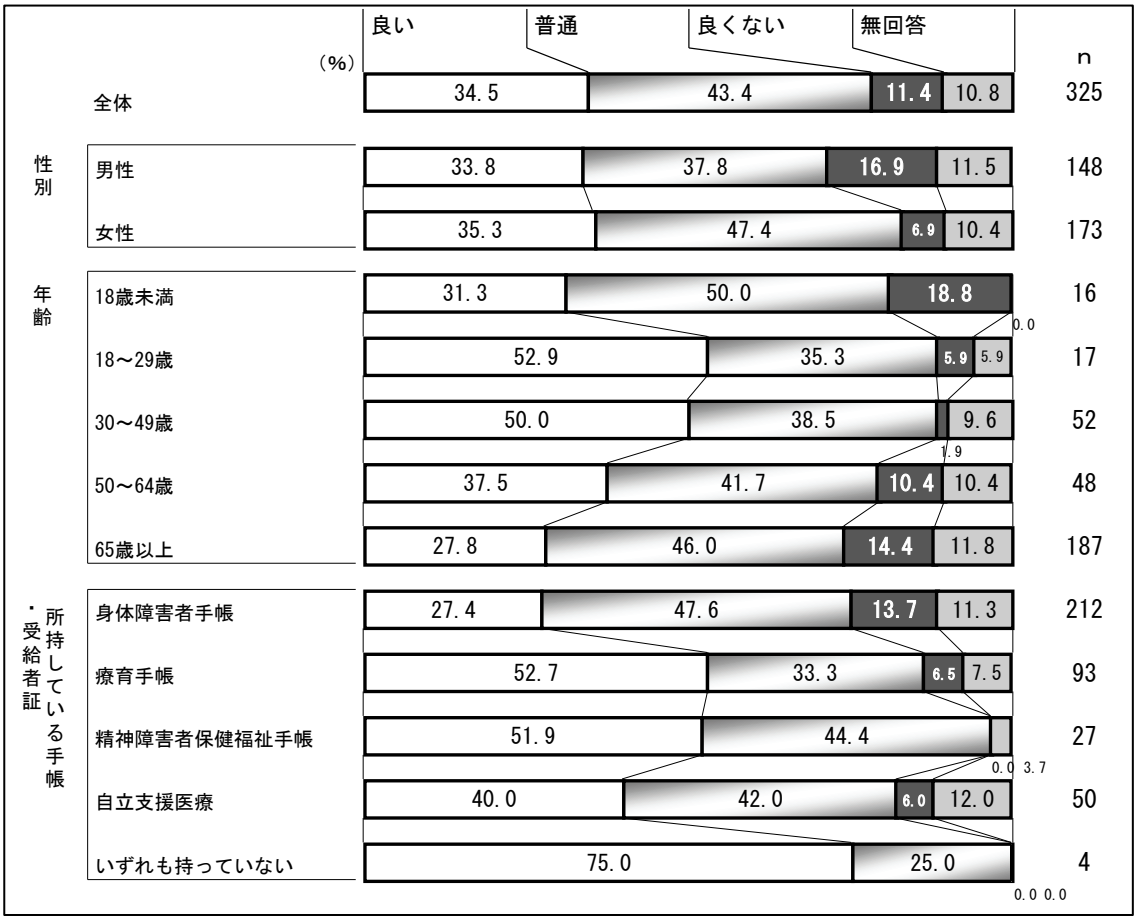
● 「普通」が４割強、「良い」が３割強を占める。

主な介助者の健康状態については、「普通」が 43.4%、「良い」が 34.5%、「良くない」が 11.4%となっている。

年齢でみると、18 歳から 49 歳では「良い」が５割以上を占めている。

所持している手帳・受給者証でみると、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳では「良い」が５割以上を占めている。

図表　主な介助者の健康状態（全体・性別・年齢・障害種別）



（６）介助者が介助できない場合の対応

【問 8-1 から問 8-5 までは、問８で「２．見守り等の支援が必要」「３．部分的に支援や介助が必要」「４．全面的に支援や介助が必要」と答えた項目があった方にお聞きします。】
問 8-5　あなたを介助（支援）してくれる方が介助（支援）できない場合はどうしますか。

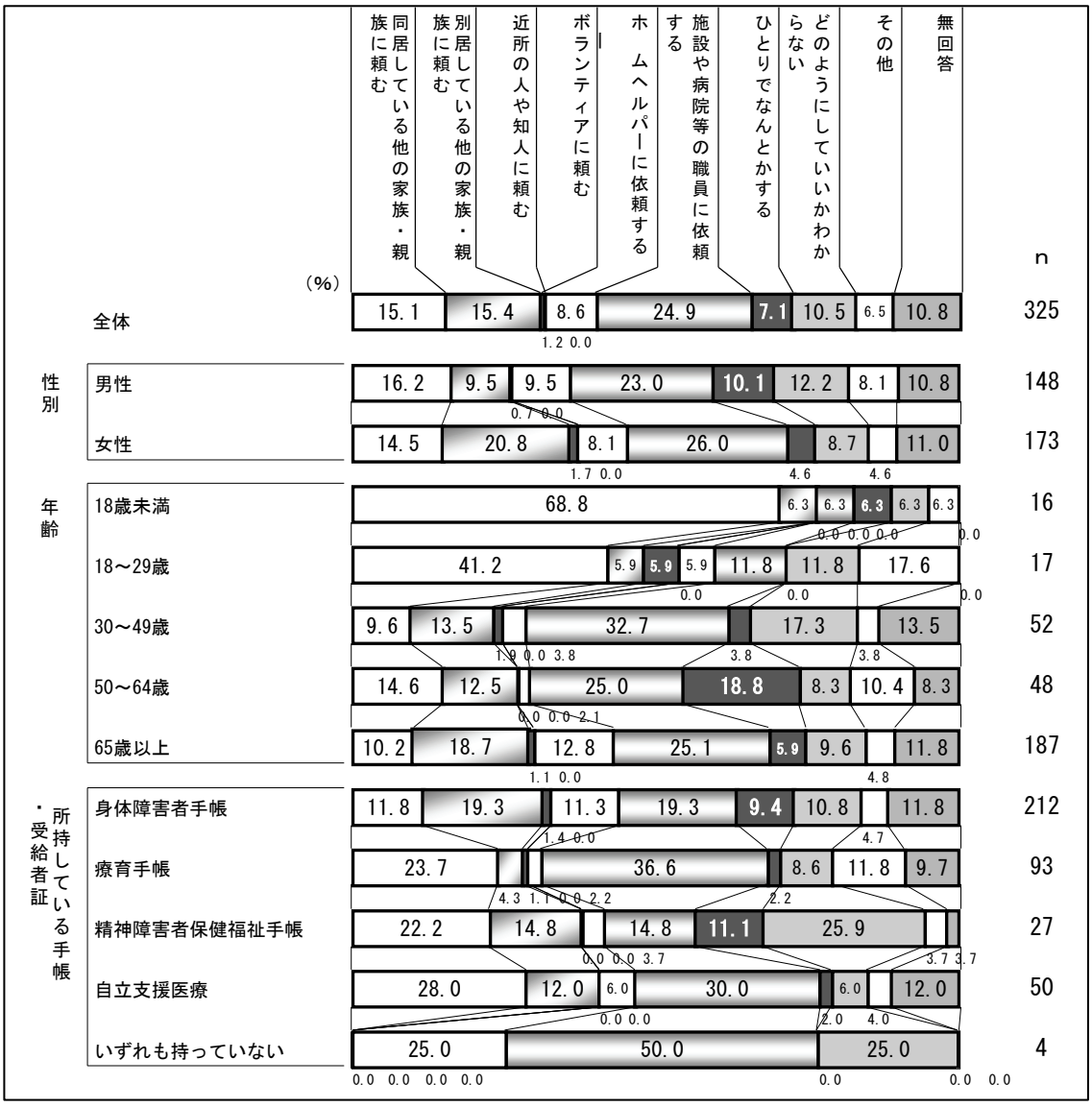
▼

● 「施設や病院等の職員に依頼する」が２割強を占める。

介助者が介助できない場合の対応については、「施設や病院等の職員に依頼する」が 24.9%、「別居している他の家族・親族に頼む」が 15.4%、「同居している他の家族・親族に頼む」が 15.1%、「どのようにしていいかわからない」が 10.5%、「ホームヘルパーに依頼する」が 8.6%、「ひとりでなんとかする」が 7.1%、「近所の人や知人に頼む」が 1.2%などとなっている。

年齢でみると、29 歳以下では「同居している他の家族・親族に頼む」が他の属性よりも高く、18 歳未満で 68.8%、18～29 歳では 41.2%となっている。

図表　介助者が介助できない場合の対応（全体・性別・年齢・障害種別）



３　保健・医療について

（１）現在受けている医療的ケア

問９　あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。【複数回答】

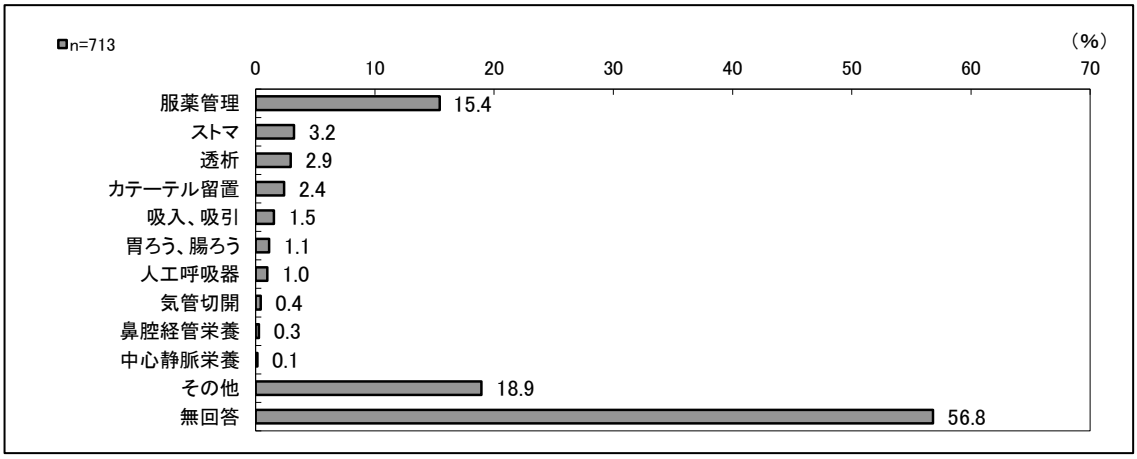
▼

● 「服薬管理」が第１位。

現在受けている医療的ケアは、「服薬管理」(15.4%)が最も多く、次いで「ストマ」(3.2%)、「透析」(2.9%)、「カテーテル留置」(2.4%)、「吸入、吸引」(1.5%)、「胃ろう、腸ろう」(1.1%)、「人工呼吸器」(1.0%)、「気管切開」(0.4%) などとなっている。

いずれの属性でも「服薬管理」が第１位となっている。

図表　現在受けている医療的ケア（全体／複数回答）



図表　在受けている医療的ケア（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		服薬管理 15.4	ストマ 3.2	透析 2.9
性別	男性	服薬管理 15.2	ストマ 4.0	透析 3.7
	女性	服薬管理 15.8	ストマ 2.7	透析 2.4
年齢	18～29 歳	服薬管理 22.2	カテーテル留置 3.7	
	30～49 歳	服薬管理 13.1	吸入、吸引／透析 2.4	
	50～64 歳	服薬管理 12.4	透析 2.9	気管切開／吸入、吸引／胃ろう、腸ろう／カテーテル留置／ストマ 1.0
	65 歳以上	服薬管理 16.5	ストマ 4.5	透析 3.4
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	服薬管理 14.8	ストマ 4.3	透析 3.9
	療育手帳	服薬管理 17.9	カテーテル留置 1.8	吸入、吸引／透析 0.9
	精神障害者保健福祉手帳	服薬管理 9.6	吸入、吸引 3.8	人工呼吸器 1.9
	自立支援医療	服薬管理 16.5	透析 5.9	吸入、吸引 3.5
	いずれも持っていない	服薬管理 71.4		

※18 歳未満は回答者なし

（２）通院状況

問 10　あなたの通院状況は次のうち、どれですか。

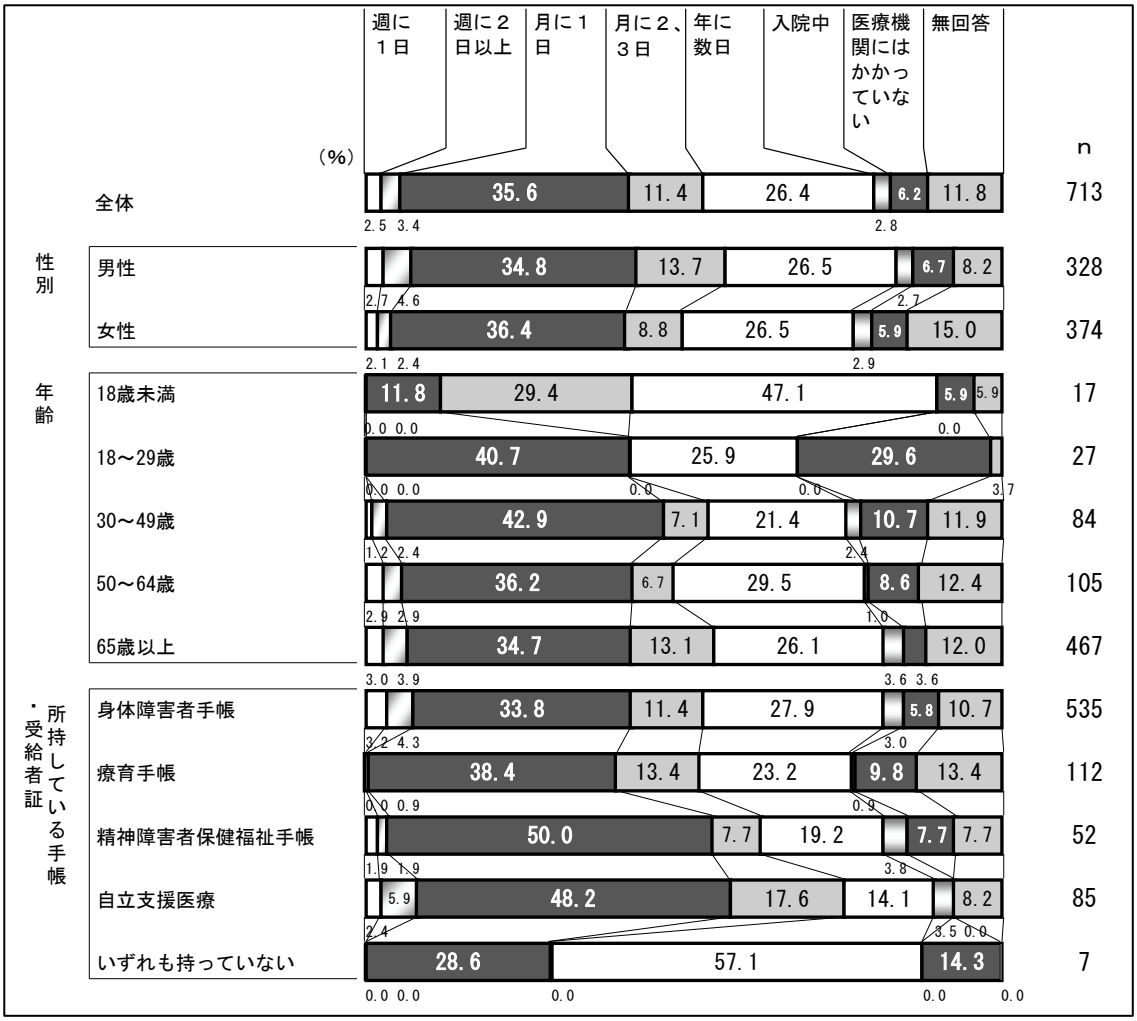
▼

● 「月に１日」が３割台半ば、「年に数日」が３割弱を占める。

通院状況は、「月に１日」が 35.6%、「年に数日」が 26.4%、「月に２、３日」が 11.4%、「週に２日以上」が 3.4%、「入院中」が 2.8%、「週に１日」が 2.5%となっている。なお、「医療機関にはかかっていない」は 6.2%となっている。

年齢でみると、18 歳未満では「年に数日」が 47.1%を占めている。18～29 歳では「医療機関にはかかっていない」が 29.6%を占めている。

図表　通院状況（全体・性別・年齢・障害種別）



（３）医療を受ける上で困っていること

問 11　医療を受ける上で、困っていることはありますか。【複数回答】

▼

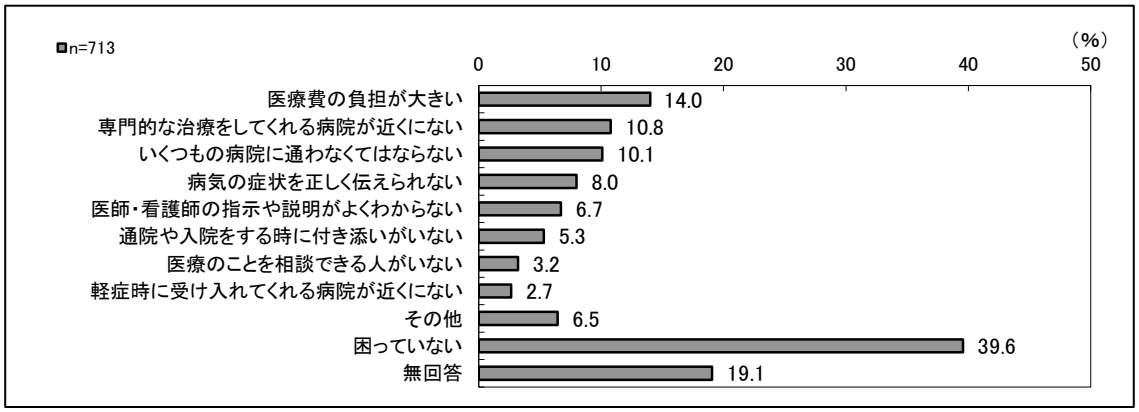
● 「医療費の負担が大きい」が第１位。「困っていない」は 39.6%を占める。

医療を受ける上で困っていることは、「医療費の負担が大きい」（14.0%）が最も多く、次いで「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」（10.8%）、「いくつもの病院に通わなくてはならない」（10.1%）、「病気の症状を正しく伝えられない」（8.0%）、「医師・看護師の指示や説明がよくわからない」（6.7%）、「通院や入院をする時に付き添いがいない」（5.3%）、「医療のことを相談できる人がいない」（3.2%）、「軽症時に受け入れてくれる病院が近くにない」（2.7%）などとなっている。なお、「困っていない」は 39.6%となっている。

年齢でみると、18 歳未満と 30～49 歳では「病気の症状を正しく伝えられない」が第１位となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、身体障害者手帳、療育手帳では「医療費の負担が大きい」が第１位となっているのに対し、他の属性では「病気の症状を正しく伝えられない」が第１位となっている。

図表　医療を受ける上で困っていること（全体／複数回答）



図表　医療を受ける上で困っていること（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		医療費の負担が大きい 14.0	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない 10.8	いくつもの病院に通わなくてはならない 10.1
性別	男性	医療費の負担が大きい 11.6	いくつもの病院に通わなくてはならない 9.1	病気の症状を正しく伝えられない 8.2
	女性	医療費の負担が大きい 16.3	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない 13.1	いくつもの病院に通わなくてはならない 11.0
年齢	18 歳未満	病気の症状を正しく伝えられない 47.1	医療費の負担が大きい 29.4	医師・看護師の指示や説明がよくわからない／専門的な治療をしてくれる病院が近くにない 17.6
	18～29 歳	医療費の負担が大きい 22.2	病気の症状を正しく伝えられない 18.5	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない／いくつもの病院に通わなくてはならない 7.4
	30～49 歳	病気の症状を正しく伝えられない 13.1	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない／医療費の負担が大きい 11.9	
	50～64 歳	医療費の負担が大きい 18.1	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない 15.2	医師・看護師の指示や説明がよくわからない 8.6
	65 歳以上	医療費の負担が大きい 12.6	いくつもの病院に通わなくてはならない 12.4	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない 9.2
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	医療費の負担が大きい 14.0	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない／いくつもの病院に通わなくてはならない 11.4	
	療育手帳	医療費の負担が大きい 18.8	病気の症状を正しく伝えられない 17.0	医師・看護師の指示や説明がよくわからない 8.0
	精神障害者保健福祉手帳	病気の症状を正しく伝えられない 15.4	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない 13.5	いくつもの病院に通わなくてはならない 11.5
	自立支援医療	病気の症状を正しく伝えられない 15.3	医療費の負担が大きい 14.1	いくつもの病院に通わなくてはならない 12.9
	いずれも持っていない	病気の症状を正しく伝えられない 14.3		

4　教育について

（１）通園、通学の状況

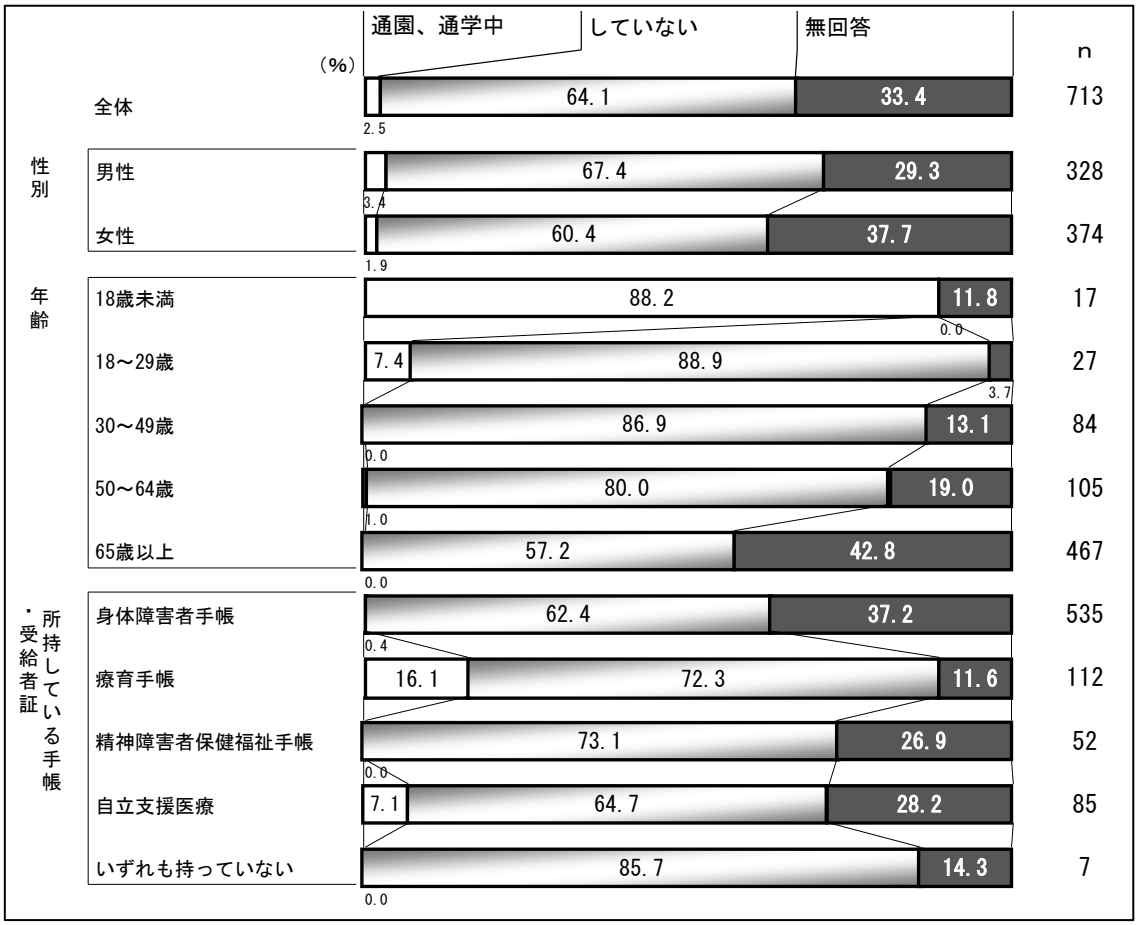
問 12　あなたは現在、通園、通学をしていますか。

▼

● 「していない」が６割強を占める。

通園、通学の状況については、「していない」が 64.1%、「通園、通学中」が 2.5%となっている。

図表　通園、通学の状況（全体・性別・年齢・障害種別）



（２）現在の通園、通学先

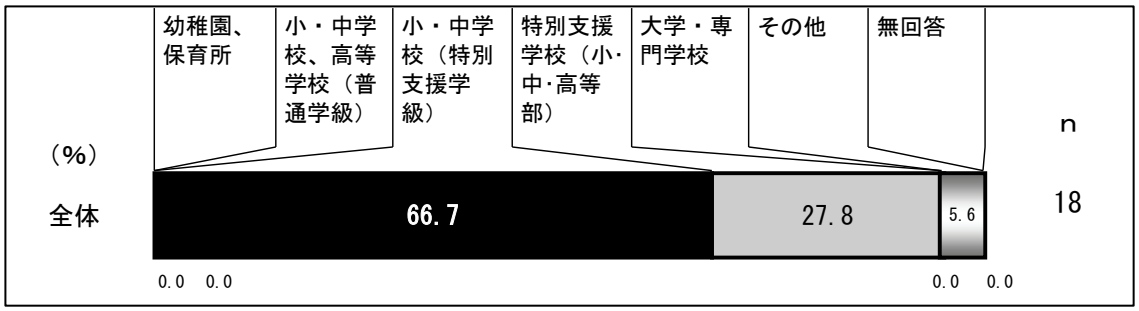
【問 12-1 から問 12-3 は、問 12 で「１．通園、通学中」と答えた方にお聞きします。】
問 12-1　あなたが通園、通学しているところは、次のうちどこですか。

▼

● 「小・中学校（特別支援学級）」が７割弱、「特別支援学校（小・中・高等部）」が３割弱を占める。

問 12 で「１．通園、通学中」と答えた人（18 人・全体の 2.5%）に、現在の通園、通学先をたずねたところ、「小・中学校（特別支援学級）」が 66.7%、「特別支援学校（小・中・高等部)」が 27.8%となっている。

図表　現在の通園、通学先（全体・性別・年齢・障害種別）



（３）望ましい障がいのある児童・生徒の就学環境

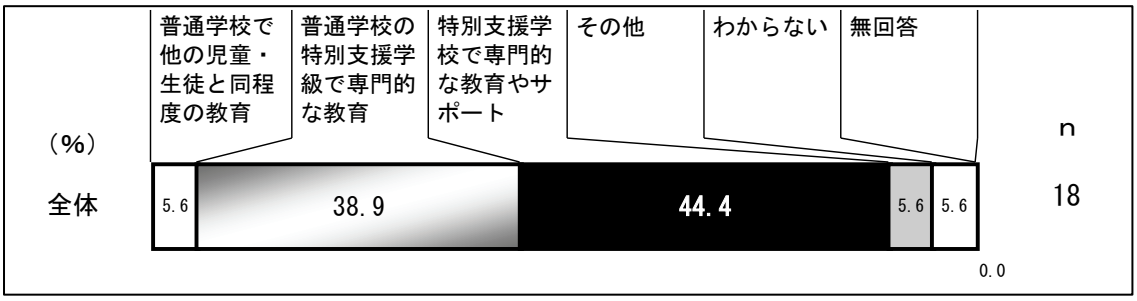
【問 12-1 から問 12-3 は、問 12 で「１．通園、通学中」と答えた方にお聞きします。】
問 12-2　障がいのある児童・生徒の就学環境として望ましいと思うものは、次のどれですか。

▼

● 「特別支援学校で専門的な教育やサポート」が４割強、「普通学校の特別支援学級で専門的な教育」が４割弱を占める。

問 12 で「１．通園、通学中」と答えた人に、望ましい障がいのある児童・生徒の就学環境についてたずねたところ、「特別支援学校で専門的な教育やサポート」が 44.4%、「普通学校の特別支援学級で専門的な教育」が 38.9%、「普通学校で他の児童・生徒と同程度の教育」が 5.6%となっている。

図表　望ましい障がいのある児童・生徒の就学環境（全体・性別・年齢・障害種別）



（４）学校等での生活を送る上での問題点

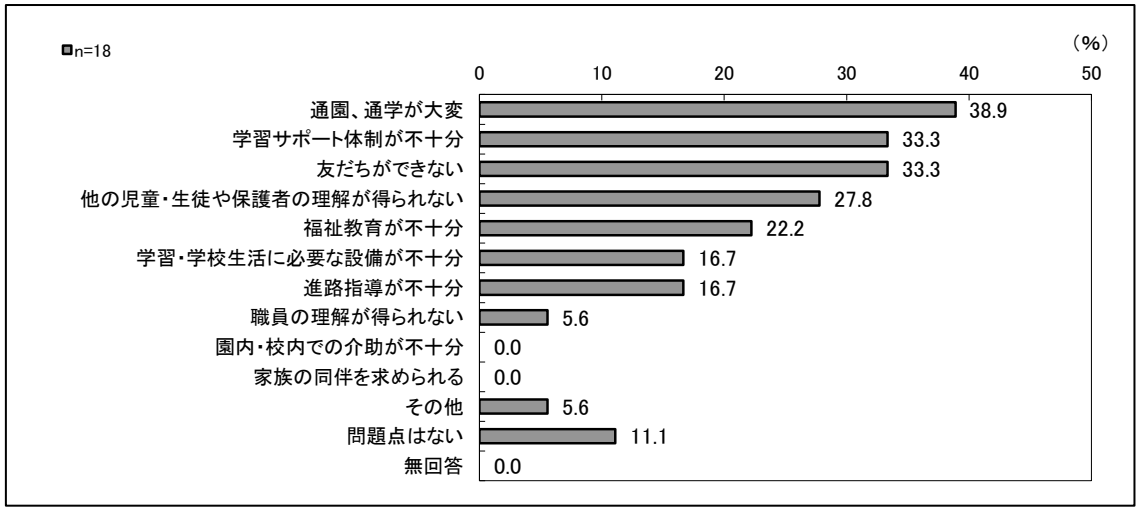
【問 12-1 から問 12-3 は、問 12 で「１．通園、通学中」と答えた方にお聞きします。】
問 12-3　学校等での生活を送る上での問題点はありますか。【複数回答】

▼

● 「通園、通学が大変」が第１位。「学習サポート体制が不十分」、「友だちができない」などが続く。

学校等での生活を送る上での問題点については、「通園、通学が大変」（38.9%）が最も多く、次いで「学習サポート体制が不十分」・「友だちができない」（同率 33.3%）、「他の児童・生徒や保護者の理解が得られない」（27.8%）、「福祉教育が不十分」（22.2%）、「学習・学校生活に必要な設備が不十分」・「進路指導が不十分」（同率 16.7%）、「職員の理解が得られない」（5.6%）となっている。

図表　学校等での生活を送る上での問題点（全体・性別・年齢・障害種別）



５　生活環境について

（１）現在の暮らし方

問 13　あなたは現在どのように暮らしていますか。

▼

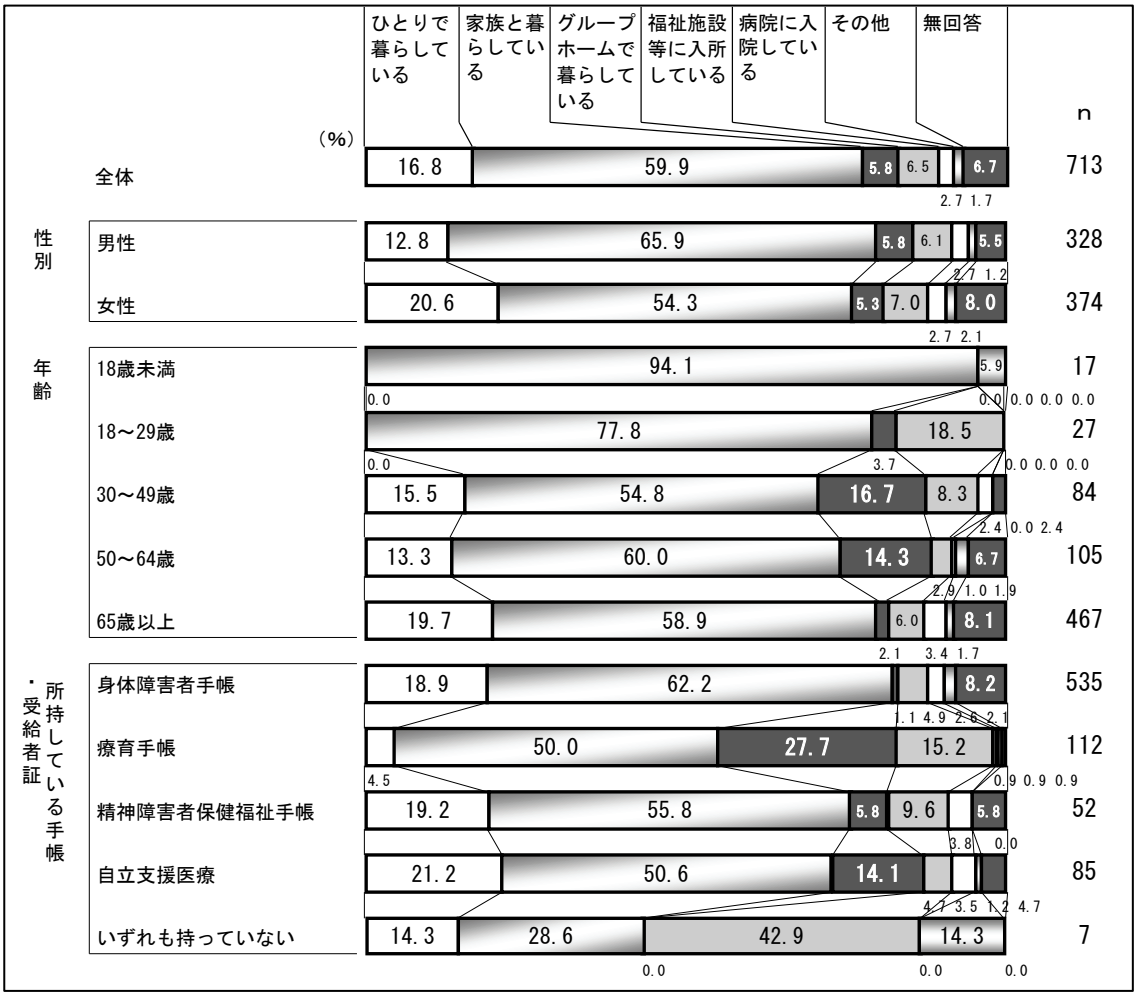
● 「家族と暮らしている」が６割弱を占める。

現在の暮らし方については、「家族と暮らしている」（59.9%）が 59.9%、「ひとりで暮らしている」が 16.8%、「福祉施設等に入所している」が 6.5%、「グループホームで暮らしている」が 5.8%、「病院に入院している」が 2.7%となっている。

年齢でみると、30 歳以上では「ひとりで暮らしている」がいずれも１割台を占めている。また、30 歳から 64 歳では「グループホームで暮らしている」も１割台となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、療育手帳では「グループホームで暮らしている」が 27.7%と他の属性よりも高くなっている。

図表　現在の暮らし方（全体・性別・年齢・障害種別）



（２）将来地域で生活したいか

【問 13-1 と問 13-2 は、問 13 で「４．福祉施設等に入所している」「５．病院に入院している」と答えた方にお聞きします。】
問 13-1　あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。

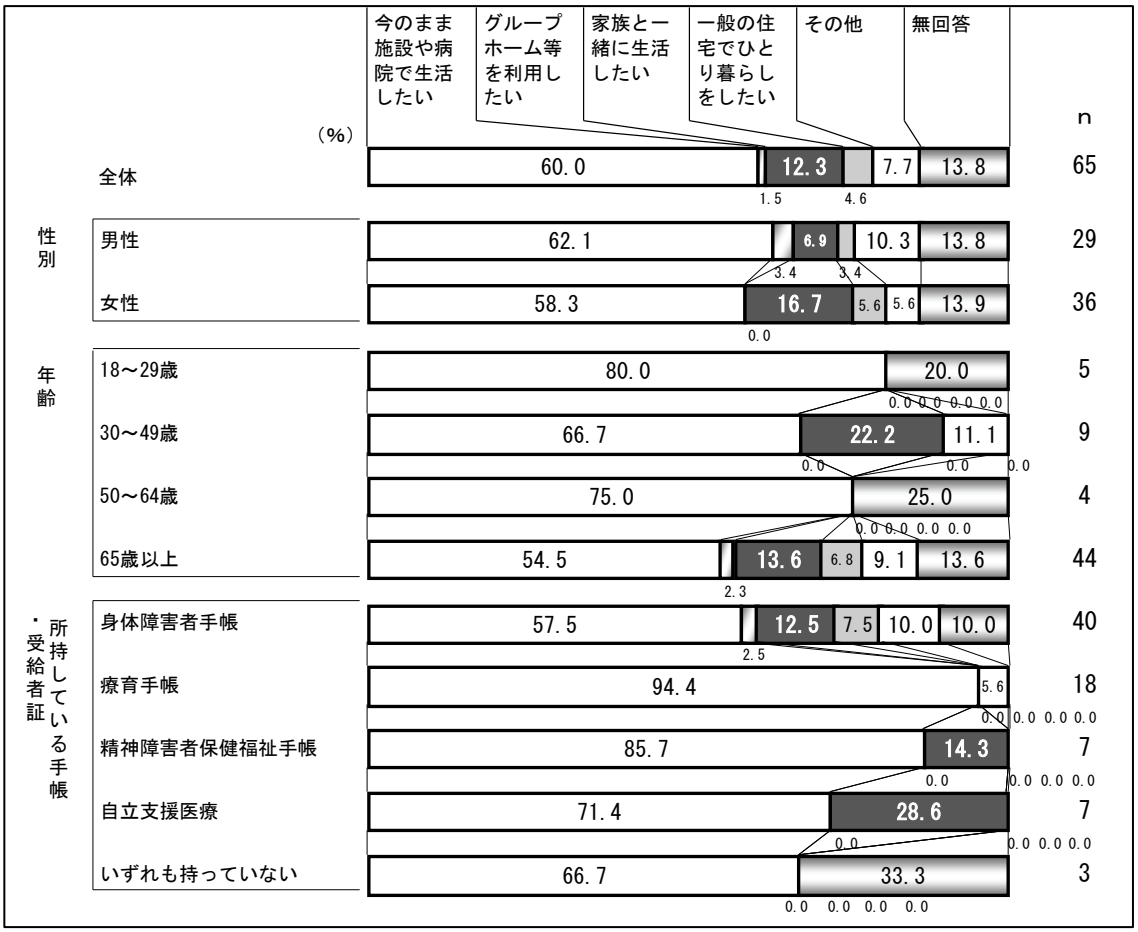
▼

● 「今のまま生活したい」が６割を占める。

問 13 で「４．福祉施設等に入所している」「５．病院に入院している」と答えた人（65 人・全体の 9.2%）に、将来地域で暮らしたいかたずねたところ、「今のまま生活したい」が 60.0%、「家族と一緒に生活したい」が 12.3%、「一般の住宅でひとり暮らしをしたい」が 4.6%、「グループホーム等を利用したい」が 1.5%となっている。

年齢でみると、「家族と一緒に生活したい」が 22.2%と他の年齢層よりも高くなっている。

図表　将来地域で暮らしたいか（全体・性別・年齢・障害種別）



（３）地域で生活するためにあると良い支援

【問 13-1 と問 13-2 は、問 13 で「４．福祉施設等に入所している」「５．病院に入院している」と答えた方にお聞きします。】
問 13-2　地域で生活するためには、どのような支援があれば良いと思いますか。【複数回答】

▼

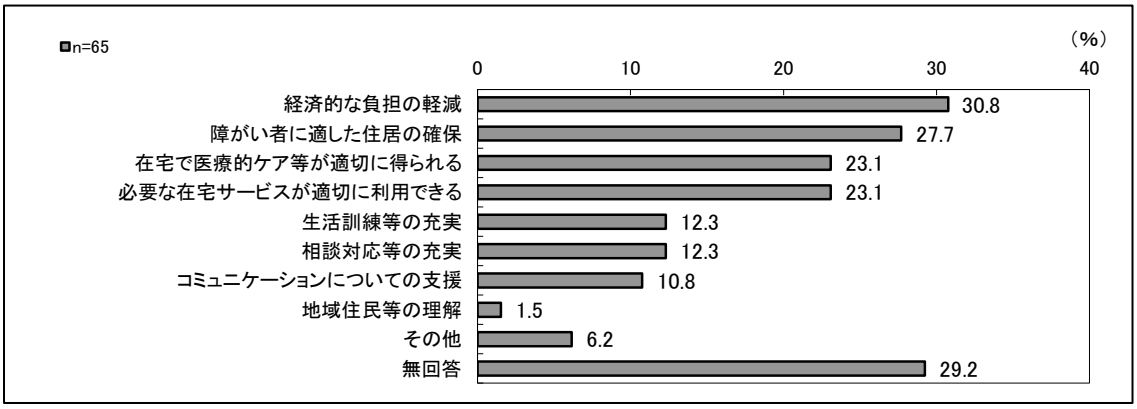
● 「経済的な負担の軽減」が第１位。「障がい者に適した住居の確保」、「在宅で医療的ケア等が適切に得られる」などが続く。

問 13 で「４．福祉施設等に入所している」「５．病院に入院している」と答えた人に、地域で生活するためにあれば良い支援についてたずねたところ、「経済的な負担の軽減」（30.8%）が最も多く、次いで「障がい者に適した住居の確保」（27.7%）、「在宅で医療的ケア等が適切に得られる」・「必要な在宅サービスが適切に利用できる」（同率 23.1%）、「生活訓練等の充実」・「相談対応等の充実」（同率 12.3%）、「コミュニケーションについての支援」（10.8%）、「地域住民等の理解」（1.5%）などとなっている。

性別でみると、男性では「障がい者に適した住居の確保」が第１位となっているのに対し、女性では「経済的な負担の軽減」が第１位となっている。

年齢でみると、30～49 歳では「障がい者に適した住居の確保」が第１位となっている。

図表　地域で生活するためにあると良い支援（全体／複数回答）



図表　地域で生活するためにあると良い支援（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>第１位</th><th>第２位</th><th>第３位</th></tr>
<tr><td colspan="2">全体</td><td>経済的な負担の軽減
30.8</td><td>障がい者に適した住居の確保
27.7</td><td>在宅で医療的ケア等が適切に得られる／必要な在宅サービスが適切に利用できる
23.1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">性別</td><td>男性</td><td>障がい者に適した住居の確保
37.9</td><td colspan="2">在宅で医療的ケア等が適切に得られる／経済的な負担の軽減
31.0</td></tr>
<tr><td>女性</td><td>経済的な負担の軽減
30.6</td><td>必要な在宅サービスが適切に利用できる
25.0</td><td>障がい者に適した住居の確保
19.4</td></tr>
<tr><td rowspan="5">年齢</td><td>18～29 歳</td><td>経済的な負担の軽減
60.0</td><td colspan="2">在宅で医療的ケア等が適切に得られる／障がい者に適した住居の確保／必要な在宅サービスが適切に利用できる／生活訓練等の充実
40.0</td></tr>
<tr><td>30～49 歳</td><td>障がい者に適した住居の確保
33.3</td><td colspan="2">在宅で医療的ケア等が適切に得られる／生活訓練等の充実／相談対応等の充実／コミュニケーションについての支援
22.2</td></tr>
<tr><td>50～64 歳</td><td colspan="3">在宅で医療的ケア等が適切に得られる／障がい者に適した住居の確保／必要な在宅サービスが適切に利用できる
50.0</td></tr>
<tr><td>65 歳以上</td><td>経済的な負担の軽減
34.1</td><td>障がい者に適した住居の確保
25.0</td><td>必要な在宅サービスが適切に利用できる
22.7</td></tr>
<tr><td rowspan="5">所持している手帳・受給者証</td><td>身体障害者手帳</td><td>障がい者に適した住居の確保
35.0</td><td colspan="2">必要な在宅サービスが適切に利用できる／経済的な負担の軽減
30.0</td></tr>
<tr><td>療育手帳</td><td>障がい者に適した住居の確保
38.9</td><td>在宅で医療的ケア等が適切に得られる
27.8</td><td>生活訓練等の充実／コミュニケーションについての支援
22.2</td></tr>
<tr><td>精神障害者保健福祉手帳</td><td colspan="3">障がい者に適した住居の確保／生活訓練等の充実／経済的な負担の軽減
28.6</td></tr>
<tr><td>自立支援医療</td><td>経済的な負担の軽減
28.6</td><td colspan="2">在宅で医療的ケア等が適切に得られる／障がい者に適した住居の確保／必要な在宅サービスが適切に利用できる／相談対応等の充実
14.3</td></tr>
<tr><td>いずれも持っていない</td><td>経済的な負担の軽減
66.7</td><td>相談対応等の充実
33.3</td><td></td></tr>
</table>

（４） １週間の外出の頻度

問 14　あなたは、１週間にどの程度外出しますか。

▼

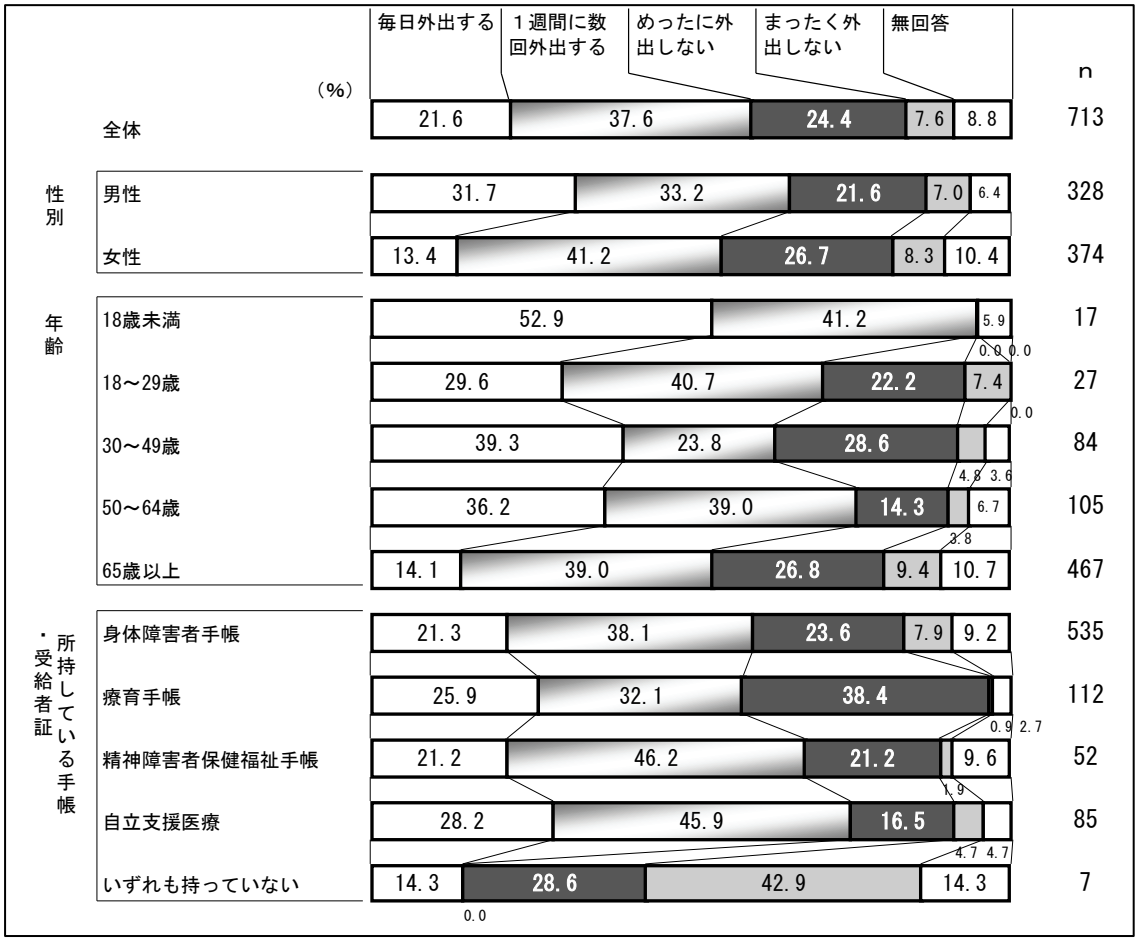
● 「１週間に数回外出する」が４割弱を占める。

１週間の外出の頻度については、「１週間に数回外出する」が 37.6%、「めったに外出しない」が 24.4%、「毎日外出する」が 21.6%、「まったく外出しない」が 7.6%となっている。

性別でみると、男性よりも女性の外出頻度が低くなっている。

年齢でみると、若年層ほど外出頻度が高い傾向がうかがえる。

図表　１週間の外出の頻度（全体・性別・年齢・障害種別）



（５）外出する際の主な同伴者

問 15　あなたが外出する際の主な同伴者はどなたですか。

▼

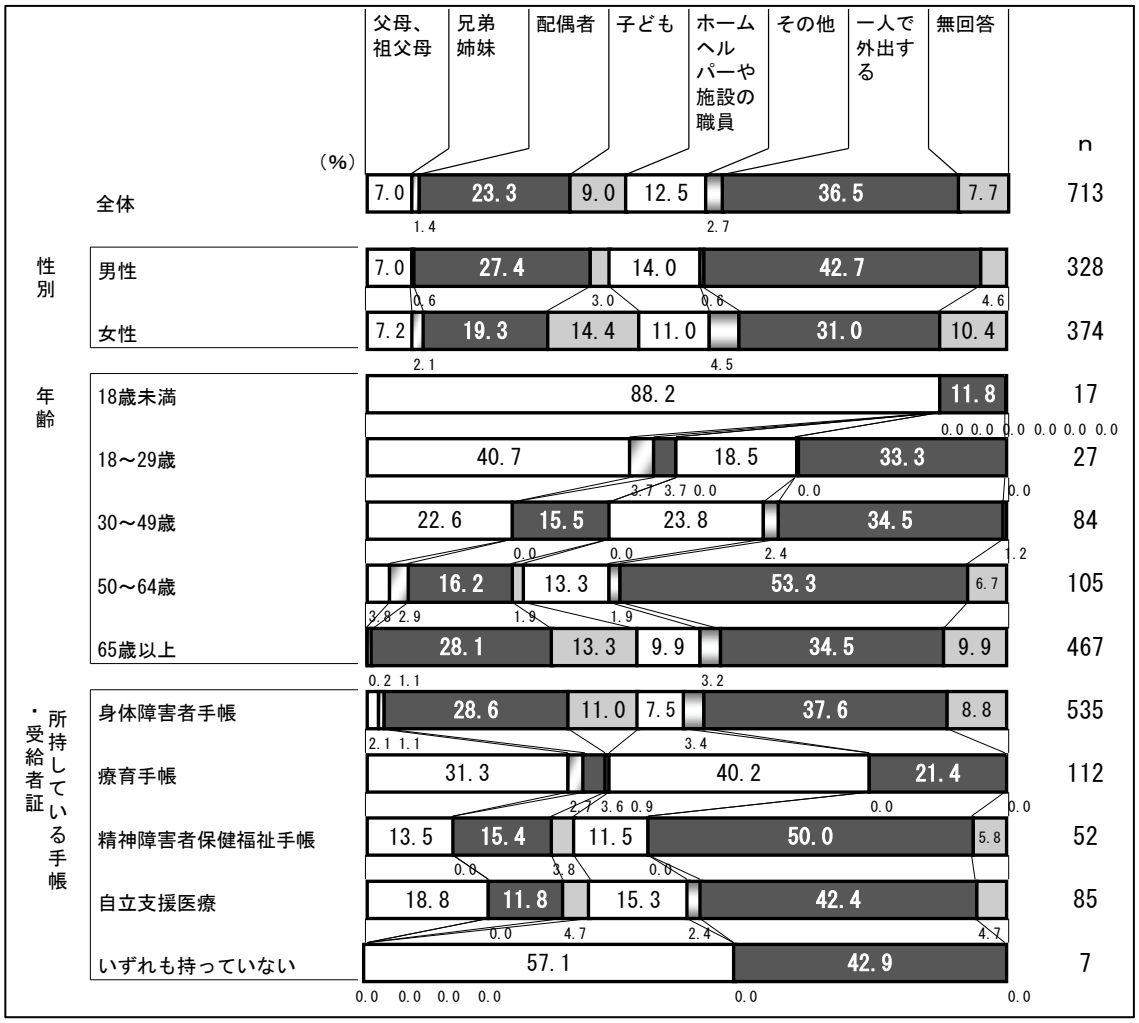
● 「一人で外出する」が４割弱を占める。

外出する際の主な同伴者については、「一人で外出する」が 36.5%、「配偶者」が 23.3%、「ホームヘルパーや施設の職員」が 12.5%、「子ども」が 9.0%、「父母、祖父母」が 7.0%、「兄弟姉妹」が 1.4%となっている。

年齢でみると、若年層では「父母、祖父母」の割合が高く、高齢になるほど「一人で外出する」、「配偶者」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

所持している手帳・受給者証でみると、療育手帳では「ホームヘルパーや施設の職員」が 40.2%、「父母、祖父母」が 31.3%となっている。

図表　外出する際の主な同伴者（全体・性別・年齢・障害種別）



（６）外出の目的

問 16　あなたはどのような目的で外出することが多いですか。

▼

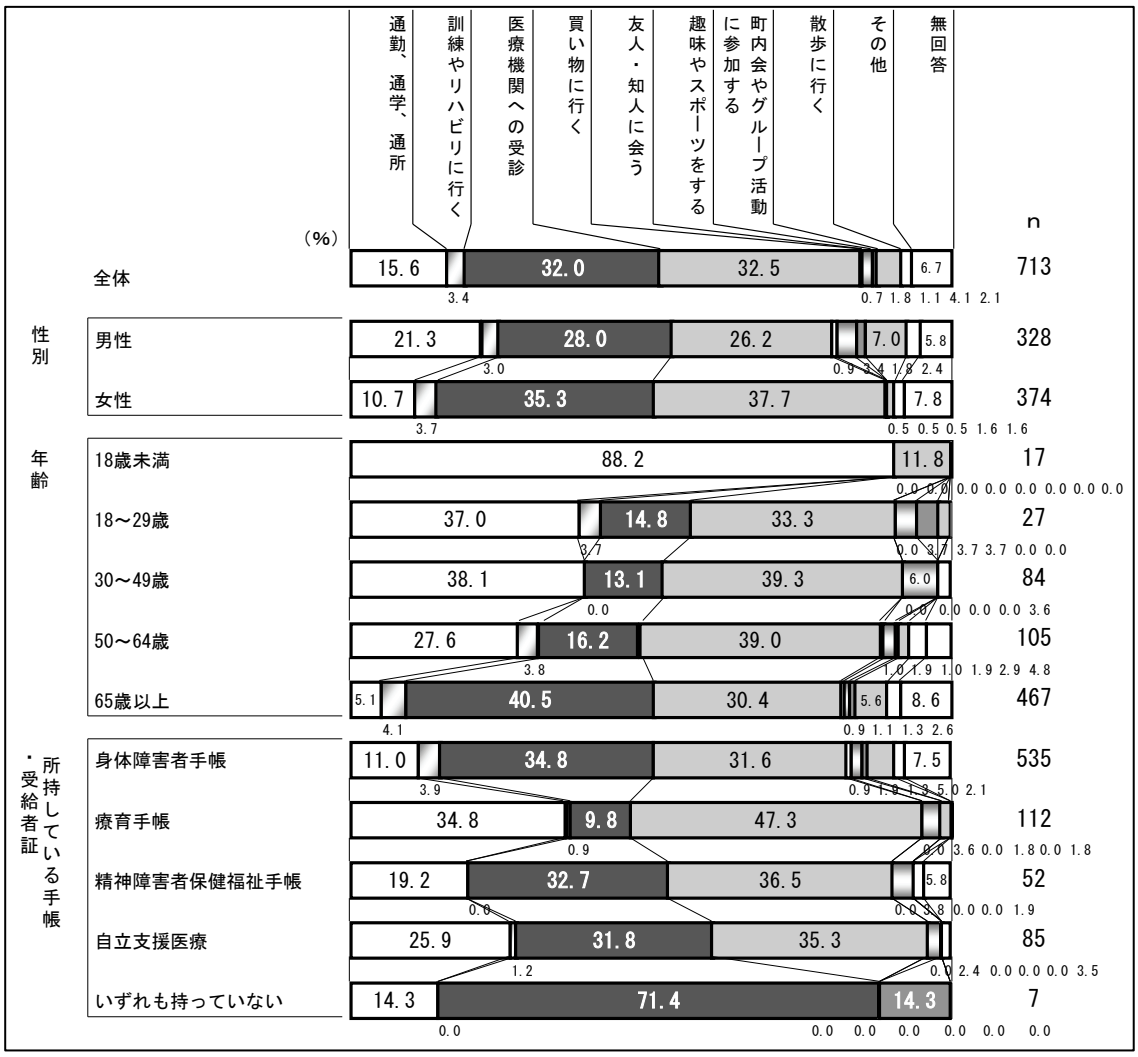
● 「買い物に行く」、「医療機関への受診」がともに３割強を占める。

外出の目的については、「買い物に行く」が 32.5%、「医療機関への受診」が 32.0%、「通勤、通学、通所」が 15.6%、「散歩に行く」が 4.1%、「訓練やリハビリに行く」が 3.4%、「趣味やスポーツをする」が 1.8%、「町内会やグループ活動に参加する」が 1.1%などとなっている。

年齢でみると、18 歳未満では「通勤、通学、通所」が 88.2%となっている。65 歳以上では「医療機関への受診」が 40.5%となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、療育手帳では「通勤、通学、通所」が 34.8%となっている。

図表　外出の目的（全体・性別・年齢・障害種別）



（７）外出する時に困ること

問 17　外出する時に困ることは何ですか。【複数回答】

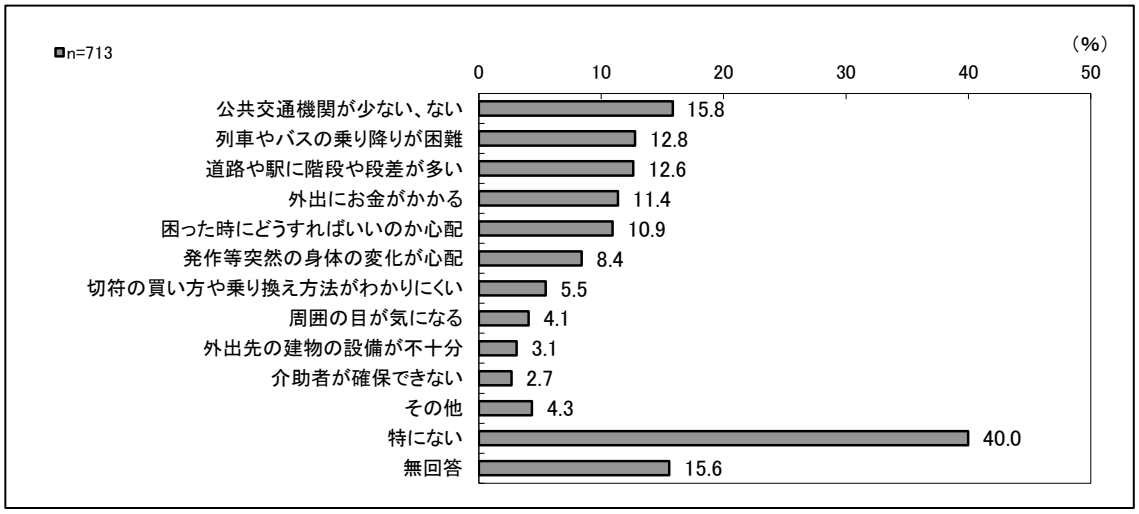
▼

● 「公共交通機関が少ない、ない」が第１位。「列車やバスの乗り降りが困難」、「道路や駅に階段や段差が多い」、「外出にお金がかかる」などが続く。

外出する時に困ることについては、「公共交通機関が少ない、ない」（15.8%）が最も多く、次いで「列車やバスの乗り降りが困難」（12.8%）、「道路や駅に階段や段差が多い」（12.6%）、「外出にお金がかかる」（11.4%）、「困った時にどうすればいいのか心配」（10.9%）、「発作等突然の身体の変化が心配」（8.4%）、「切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい」（5.5%）、「周囲の目が気になる」（4.1%）、「外出先の建物の設備が不十分」（3.1%）、「介助者が確保できない」（2.7%）などとなっている。なお、「特にない」は40.0%となっている。

年齢でみると、29 歳未満では「困った時にどうすればいいのか心配」が第１位となっている。

図表　外出する時に困ること（全体／複数回答）



図表　外出する時に困ること（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		公共交通機関が少ない、ない 15.8	列車やバスの乗り降りが困難 12.8	道路や駅に階段や段差が多い 12.6
性別	男性	公共交通機関が少ない、ない 12.5	外出にお金がかかる 11.0	列車やバスの乗り降りが困難 10.7
	女性	公共交通機関が少ない、ない 19.0	列車やバスの乗り降りが困難 15.0	道路や駅に階段や段差が多い 14.7
年齢	18 歳未満	困った時にどうすればいいのか心配 64.7	切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい 29.4	公共交通機関が少ない、ない／列車やバスの乗り降りが困難／周囲の目が気になる 23.5
	18～29 歳	困った時にどうすればいいのか心配 25.9	切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい 18.5	列車やバスの乗り降りが困難 14.8
	30～49 歳	公共交通機関が少ない、ない 20.2	困った時にどうすればいいのか心配 15.5	外出にお金がかかる 14.3
	50～64 歳	公共交通機関が少ない、ない 18.1	外出にお金がかかる 16.2	道路や駅に階段や段差が多い 11.4
	65 歳以上	公共交通機関が少ない、ない／列車やバスの乗り降りが困難 14.8		道路や駅に階段や段差が多い 14.6
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	公共交通機関が少ない、ない 16.3	道路や駅に階段や段差が多い 15.5	列車やバスの乗り降りが困難 14.6
	療育手帳	困った時にどうすればいいのか心配 21.4	公共交通機関が少ない、ない 15.2	切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい 11.6
	精神障害者保健福祉手帳	公共交通機関が少ない、ない／困った時にどうすればいいのか心配 21.2		発作等突然の身体の変化が心配 13.5
	自立支援医療	公共交通機関が少ない、ない 16.5	外出にお金がかかる 15.3	発作等突然の身体の変化が心配／困った時にどうすればいいのか心配 14.1
	いずれも持っていない	切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい／外出にお金がかかる／困った時にどうすればいいのか心配 14.3		

６　雇用・就業などについて

（１）平日の日中の過ごし方

問 18　あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。

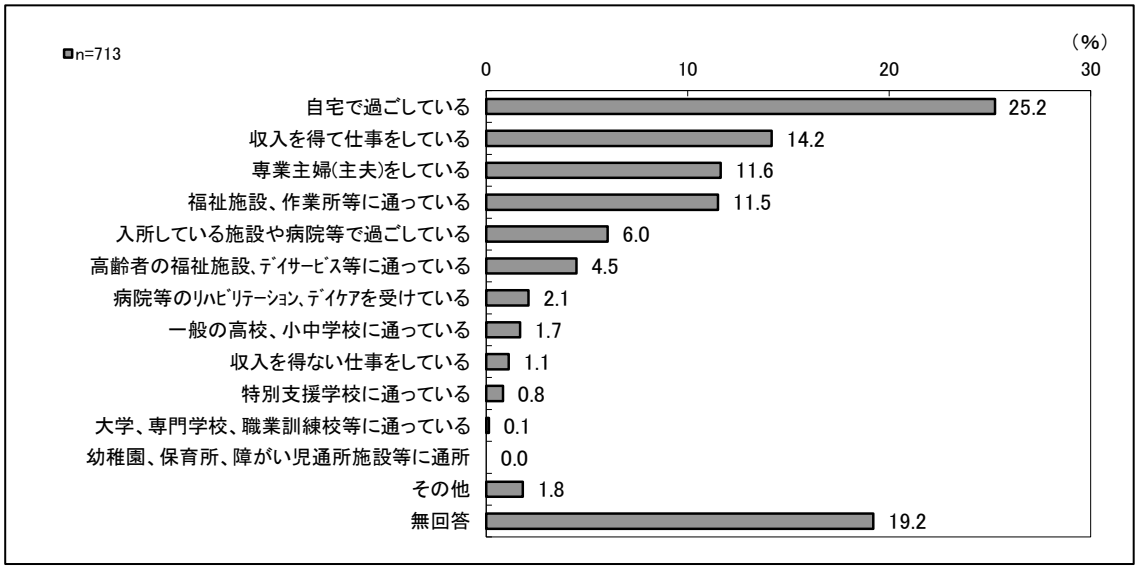
▼

● 「自宅で過ごしている」が２割台半ばを占める。

平日の日中の過ごし方については、「自宅で過ごしている」が 25.2%、「収入を得て仕事をしている」が 14.2%、「専業主婦(主夫)をしている」が 11.6%、「福祉施設、作業所等に通っている」が 11.5%、「入所している施設や病院等で過ごしている」が 6.0%、「高齢者の福祉施設､デイサービス等に通っている｣が 4.5%､｢病院等のリハビリテーション、デイケアを受けている」が 2.1%、「一般の高校、小中学校に通っている」が 1.7%、「収入を得ない仕事をしている」が 1.1%などとなっている。

年齢でみると、18 歳から 49 歳では「福祉施設、作業所等に通っている」が最も高い割合を占めているほか、50～64 歳では「収入を得て仕事をしている」が最も高い割合を占めている。

図表　平日の日中の過ごし方（全体）



図表　平日の日中の過ごし方（全体・性別・年齢・障害種別）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		自宅で過ごしている 25.2	収入を得て仕事をしている 14.2	専業主婦(主夫)をしている 11.6
性別	男性	自宅で過ごしている 31.1	収入を得て仕事をしている 19.8	福祉施設、作業所等に通っている 14.6
	女性	自宅で過ごしている 20.9	専業主婦(主夫)をしている 20.1	収入を得て仕事をしている 9.1
年齢	18 歳未満	一般の高校、小中学校に通っている 70.6	特別支援学校に通っている 23.5	
	18～29 歳	福祉施設、作業所等に通っている 33.3	収入を得て仕事をしている／自宅で過ごしている 18.5	
	30～49 歳	福祉施設、作業所等に通っている 45.2	収入を得て仕事をしている 28.6	専業主婦(主夫)をしている／自宅で過ごしている 7.1
	50～64 歳	収入を得て仕事をしている 26.7	福祉施設、作業所等に通っている 22.9	自宅で過ごしている 18.1
	65 歳以上	自宅で過ごしている 32.1	専業主婦(主夫)をしている 13.9	収入を得て仕事をしている 9.0
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	自宅で過ごしている 29.7	収入を得て仕事をしている 15.9	専業主婦(主夫)をしている 13.8
	療育手帳	福祉施設、作業所等に通っている 51.8	入所している施設や病院等で過ごしている／一般の高校、小中学校に通っている 10.7	
	精神障害者保健福祉手帳	自宅で過ごしている 26.9	福祉施設、作業所等に通っている 25.0	収入を得て仕事をしている 15.4
	自立支援医療	福祉施設、作業所等に通っている 31.8	自宅で過ごしている 23.5	専業主婦(主夫)をしている 10.6
	いずれも持っていない	高齢者の福祉施設、デイサービス等に通っている／自宅で過ごしている／入所している施設や病院等で過ごしている 28.6		

（２）勤務形態

【問 18-1 は、問 18 で「１．会社勤めや自営業、家業等で収入を得て仕事をしている」と答えた方にお聞きします。】
問 18-1　どのような勤務形態で働いていますか。

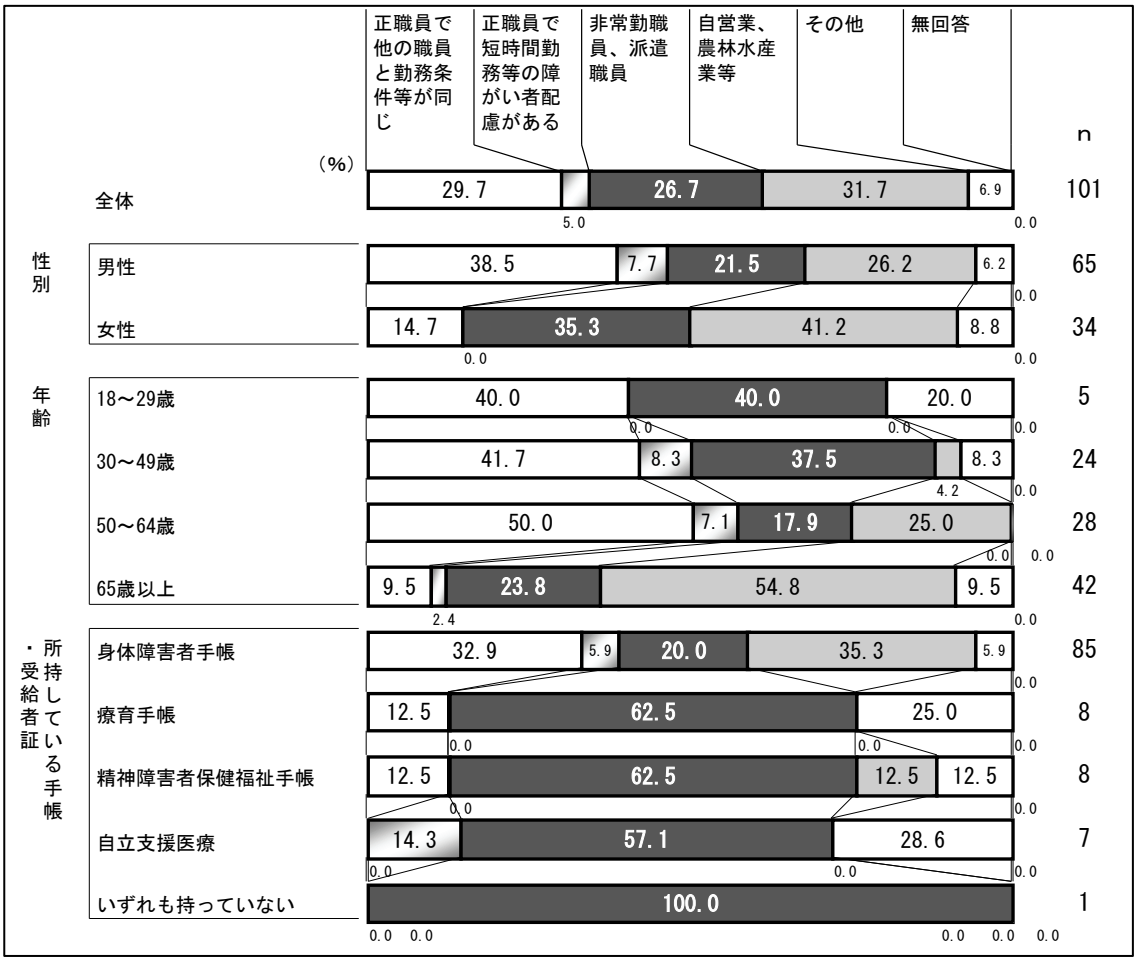
▼

● 「自営業、農林水産業等」が３割強を占める。

問 18 で「１．会社勤めや自営業、家業等で収入を得て仕事をしている」と答えた人（101 人・全体の 14.2%）に、勤務形態についてたずねたところ、「自営業、農林水産業等」が 31.7%、「正職員で他の職員と勤務条件等が同じ」が 29.7%、「非常勤職員、派遣職員」が 26.7%、「正職員で短時間勤務等の障がい者配慮がある」が 5.0%となっている。

性別でみると、男性では「正職員で他の職員と勤務条件等が同じ」が 38.5%を占めているのに対し、女性では 14.7%となっている。女性では「自営業、農林水産業等」が 41.2%、「非常勤職員、派遣職員」が 35.3%となっている。

図表　勤務形態（全体・性別・年齢・障害種別）



（３）今後収入を得る仕事をしたいか

問 19　あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。

▼

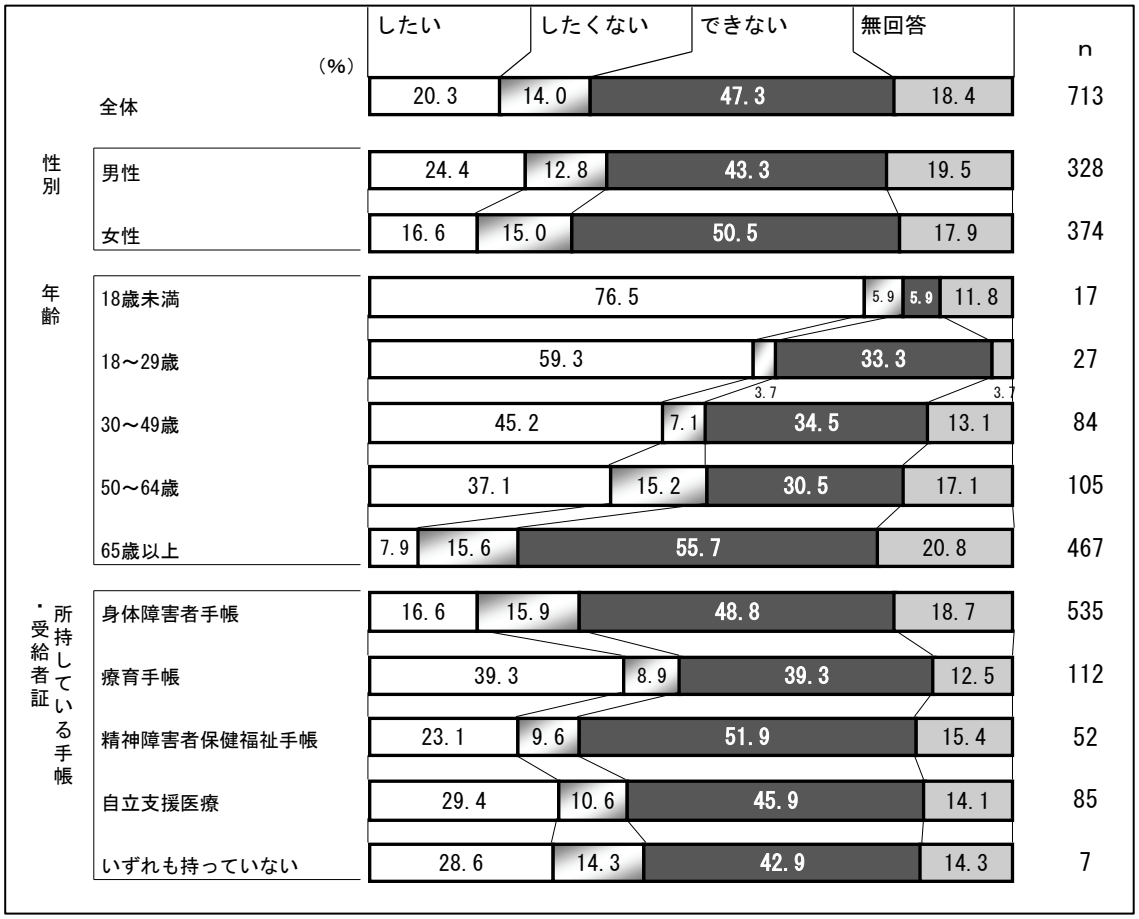
● 「できない」が５割弱を占める。

今後収入を得る仕事をしたいかたずねたところ、「できない」が 47.3%、「したい」が 20.3%、「したくない」が 14.0%となっている。

性別でみると、女性では「したい」が 16.6%となっているのに対し、男性では 24.4%と上回っている。

年齢でみると、若年層ほど「したい」の割合が高くなり、高齢であるほど「できない」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表　今後収入を得る仕事をしたいか（全体・性別・年齢・障害種別）



（４）仕事に就くために職業訓練などを受けたいか

【問 19-1 は、問 19 で「１．したい」と答えた方にお聞きします。】
問 19-1　収入を得る仕事をするために、職業訓練等を受けたいと思いますか。

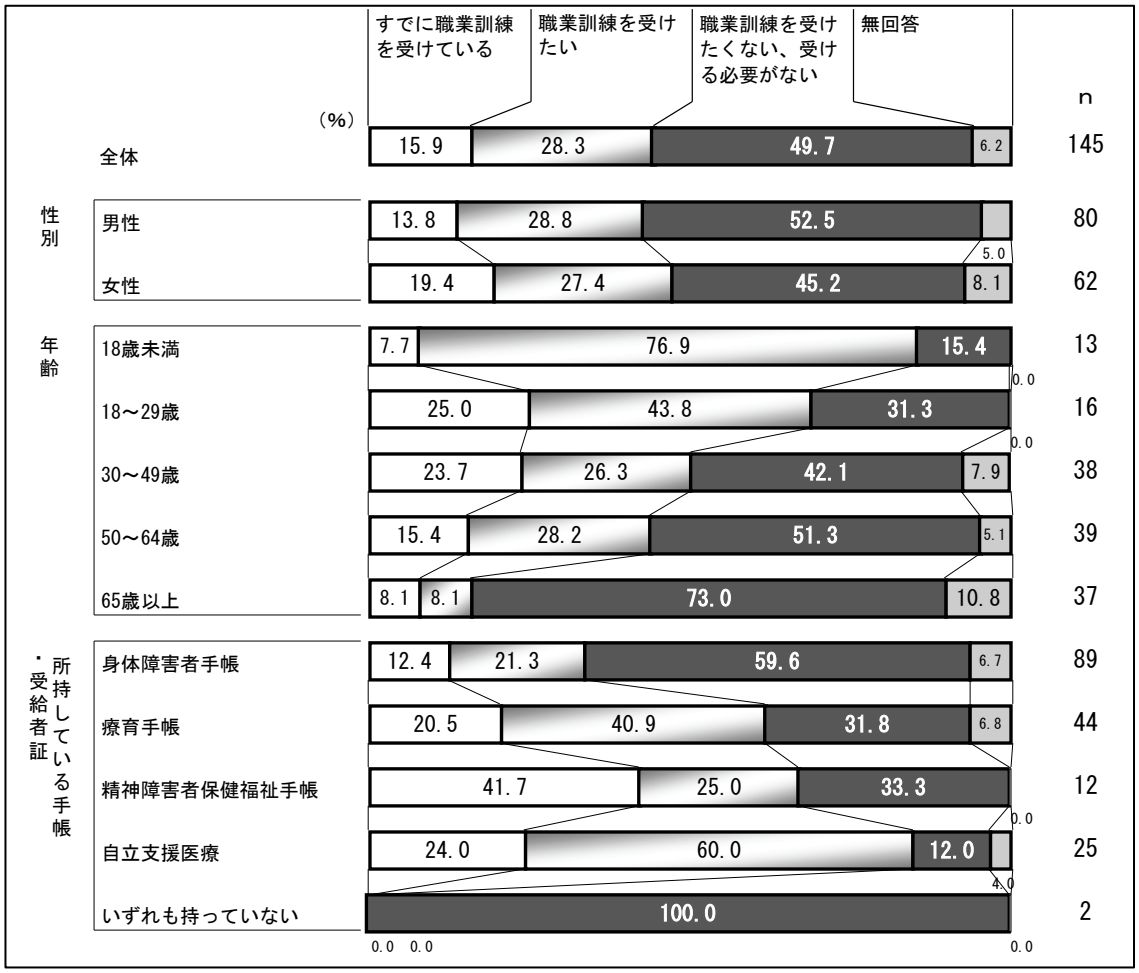
▼

● 「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が５割弱を占める。

問 19 で「１．したい」と答えた人（145 人・全体の 20.3%）に、仕事に就くために職業訓練などを受けたいかたずねたところ、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 49.7%、「職業訓練を受けたい」が 28.3%、「すでに職業訓練を受けている」が 15.9%となっている。

年齢でみると、若年層ほど「職業訓練を受けたい」の割合が高くなる傾向がある。

図表　仕事に就くために職業訓練などを受けたいか（全体・性別・年齢・障害種別）



（５）障がい者の就労支援として必要なこと

問 20　あなたは障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
【複数回答】

▼

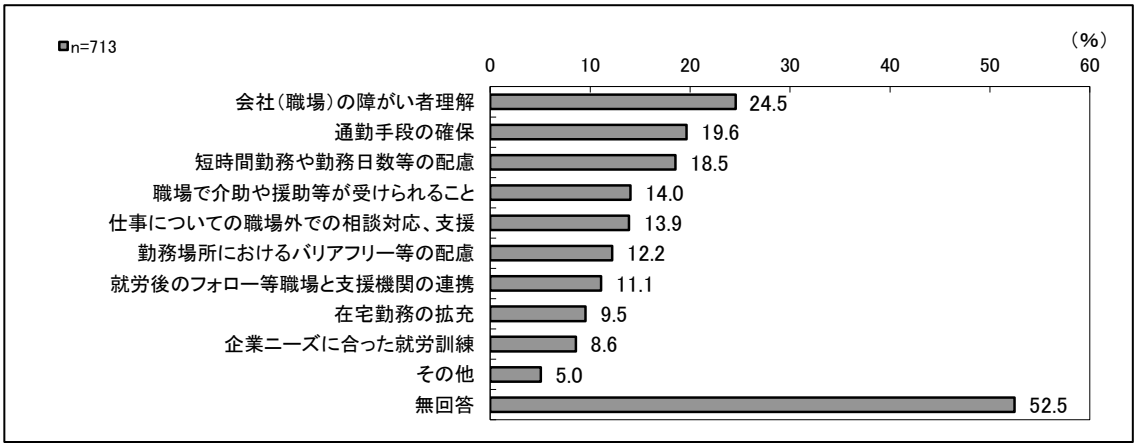
● 「会社（職場）の障がい者理解」が第１位。「通勤手段の確保」、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」、「職場で介助や援助等が受けられること」などが続く。

障がい者の就労支援として必要なことについては、「会社（職場）の障がい者理解」（24.5%）が最も多く、次いで「通勤手段の確保」（19.6%）、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」（18.5%）、「職場で介助や援助等が受けられること」（14.0%）、「仕事についての職場外での相談対応、支援」（13.9%）、「勤務場所におけるバリアフリー等の配慮」（12.2%）、「就労後のフォロー等職場と支援機関の連携」（11.1%）、「在宅勤務の拡充」（9.5%）、「企業ニーズに合った就労訓練」（8.6%）などとなっている。

年齢でみると、18 歳未満では「就労後のフォロー等職場と支援機関の連携」、65 歳以上では「通勤手段の確保」が第１位となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、精神障害者保健福祉手帳では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が第１位となっている。

図表　障がい者の就労支援として必要なこと（全体／複数回答）



図表　障がい者の就労支援として必要なこと（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		会社（職場）の障がい者理解 24.5	通勤手段の確保 19.6	短時間勤務や勤務日数等の配慮 18.5
性別	男性	会社（職場）の障がい者理解 26.2	通勤手段の確保 21.0	短時間勤務や勤務日数等の配慮 16.2
	女性	会社（職場）の障がい者理解 23.5	短時間勤務や勤務日数等の配慮 20.6	通勤手段の確保 18.4
年齢	18 歳未満	就労後のフォロー等職場と支援機関の連携 70.6	通勤手段の確保／短時間勤務や勤務日数等の配慮／会社（職場）の障がい者理解／職場で介助や援助等が受けられること 64.7	
	18～29 歳	会社（職場）の障がい者理解 55.6	仕事についての職場外での相談対応、支援 48.1	就労後のフォロー等職場と支援機関の連携 33.3
	30～49 歳	会社（職場）の障がい者理解 50.0	通勤手段の確保／短時間勤務や勤務日数等の配慮 31.0	
	50～64 歳	会社（職場）の障がい者理解 37.1	仕事についての職場外での相談対応、支援 28.6	通勤手段の確保／短時間勤務や勤務日数等の配慮 25.7
	65 歳以上	通勤手段の確保 14.6	会社（職場）の障がい者理解 14.3	短時間勤務や勤務日数等の配慮 12.6
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	会社（職場）の障がい者理解 23.4	通勤手段の確保 18.1	短時間勤務や勤務日数等の配慮 17.0
	療育手帳	会社（職場）の障がい者理解 30.4	仕事についての職場外での相談対応、支援 29.5	職場で介助や援助等が受けられること 26.8
	精神障害者保健福祉手帳	短時間勤務や勤務日数等の配慮 28.8	通勤手段の確保／会社（職場）の障がい者理解 25.0	
	自立支援医療	会社（職場）の障がい者理解 35.3	短時間勤務や勤務日数等の配慮 29.4	通勤手段の確保 28.2
	いずれも持っていない	仕事についての職場外での相談対応、支援 42.9	会社（職場）の障がい者理解／職場で介助や援助等が受けられること／就労後のフォロー等職場と支援機関の連携 28.6	

7　障がい福祉サービスなどについて

（１）障害支援区分の認定を受けているか

問 21　あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

▼

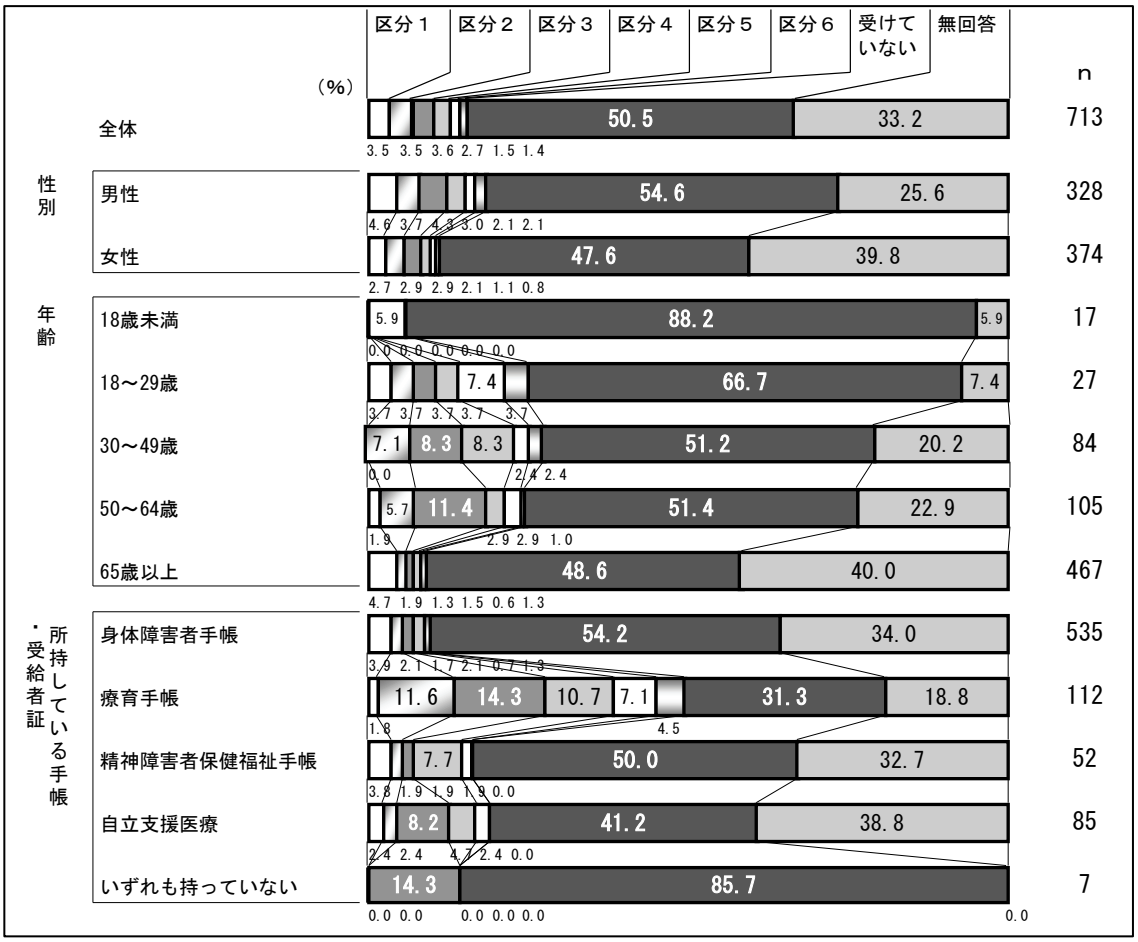
● 「受けていない」が５割強を占める。

障害支援区分については、「受けていない」が 50.5%、「区分３」が 3.6%、「区分１」・「区分２」が同率で 3.5%、「区分４」が 2.7%、「区分５」が 1.5%、「区分６」が 1.4%となっている。

年齢でみると、18 歳から 64 歳では障害支援区分の認定を受けている人の割合が高くなっている。

所持している手帳・受給者証でみると、療育手帳では障害支援区分の認定を受けている人の割合が高くなっている。

図表　障害支援区分の認定を受けているか（全体・性別・年齢・障害種別）



（２）介護認定を受けているか

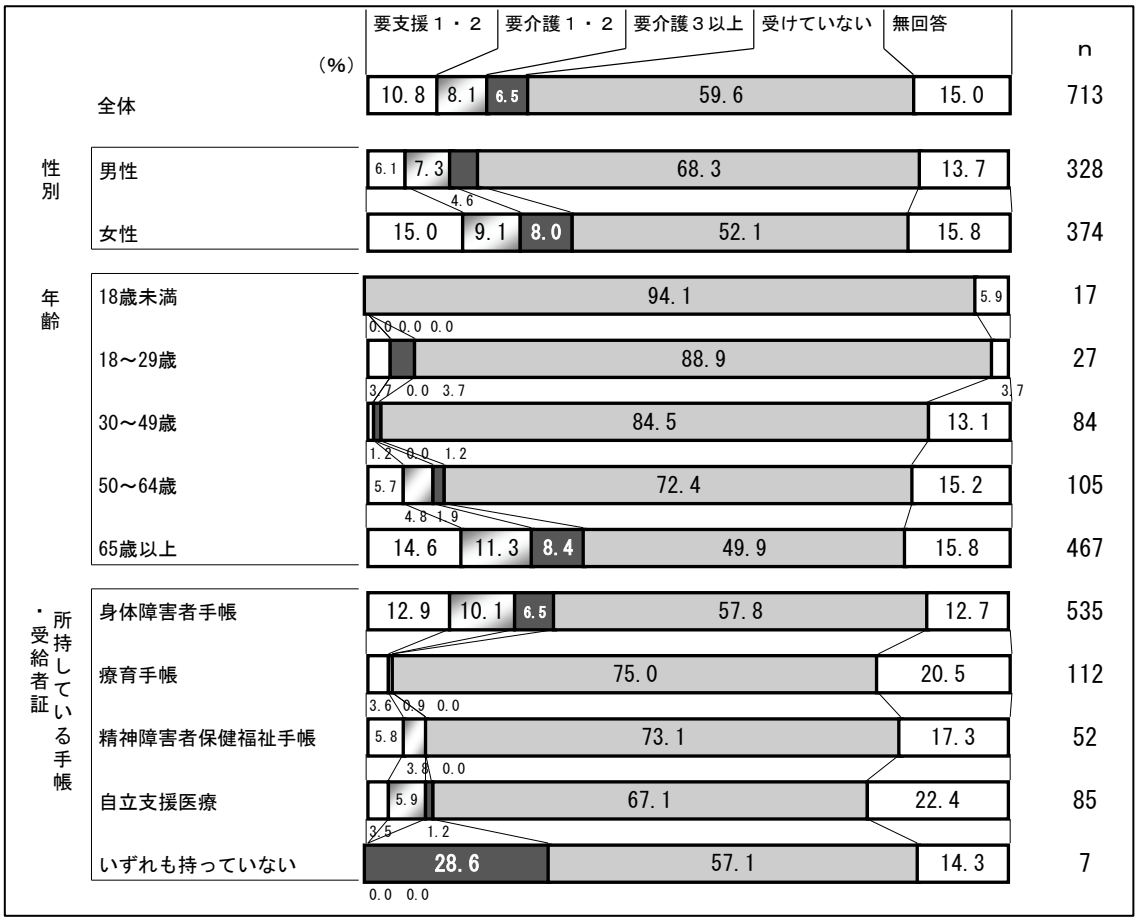
問 22　あなたは介護認定を受けていますか。

▼

● 「受けていない」が６割弱を占める。

介護認定については、「受けていない」が 59.6%、「要支援１・２」が 10.8%、「要介護１・２」が 8.1%、「要介護３以上」が 6.5%となっている。

図表　介護認定を受けているか（全体・性別・年齢・障害種別）



（３）サービスの利用について

問 23　あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えていますか。
①から㉘のそれぞれについて、「（１）現在利用しているか」と「（２）今後利用したいか」の両方に回答してください。なお、介護保険の対象となる方は、介護保険サービスが優先されます。

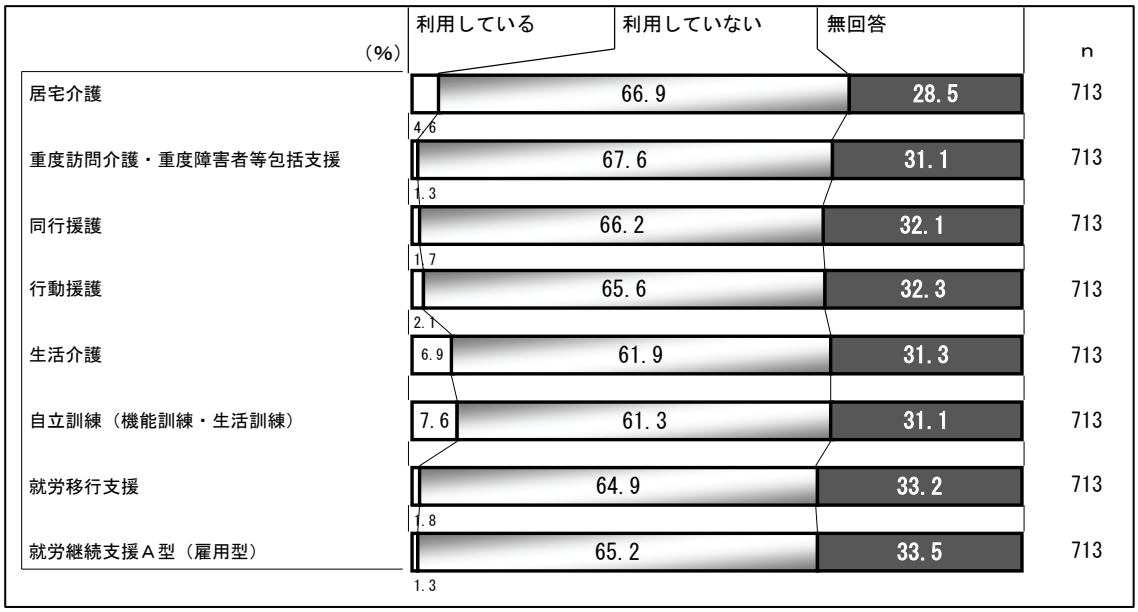
▼

- **現在の利用状況については、「相談支援」が 10.1%で最も高い割合を占める。「自立支援医療制度」（9.1%）、「補装具費支給制度」（8.4%）などが続く。**
- **今後の利用意向については、「相談支援」が 26.2%で最も高い割合を占める。「施設入所支援」・「自立支援医療制度」（同率 16.8%）、「居宅介護」（16.7%）などが続く。**

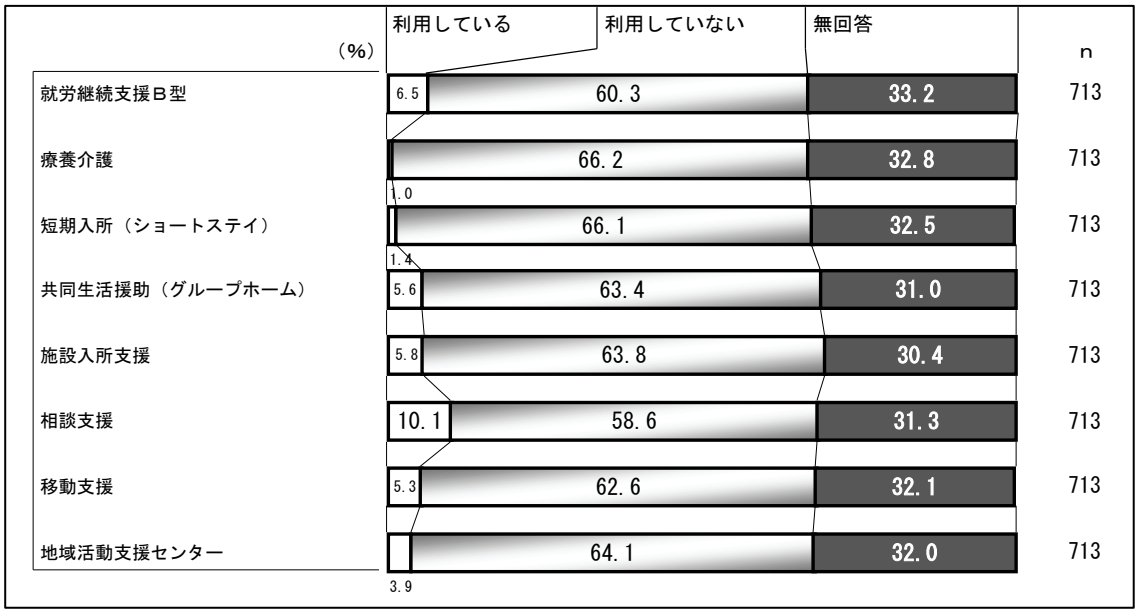
(1) 現在の利用状況

それぞれのサービスの現在の利用状況は以下のとおり。「相談支援」（10.1%）が最も多く、次いで「自立支援医療制度」（9.1%）、「補装具費支給制度」（8.4%）、「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」（7.6%）などとなっている。

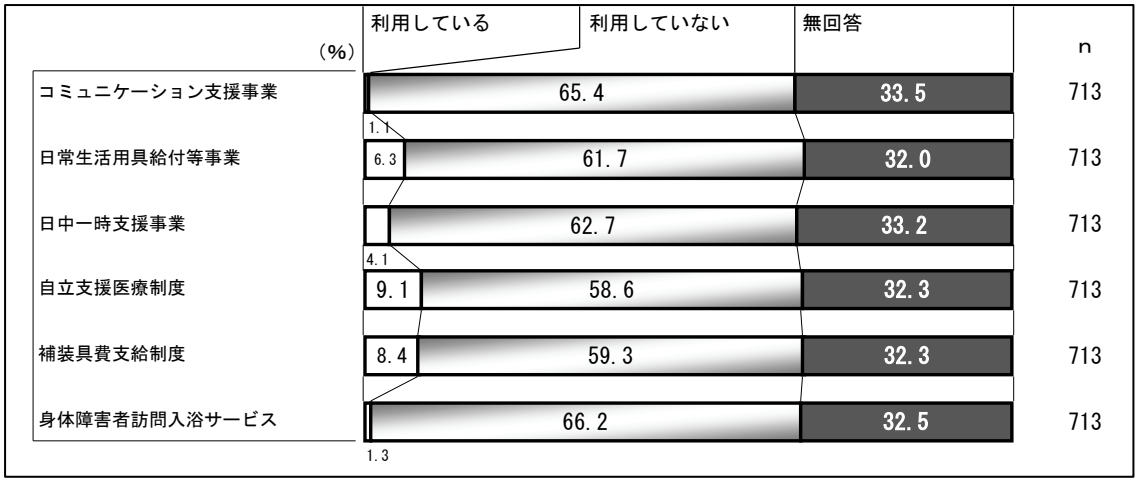
図表　サービスの利用状況について　①～⑧（全体）



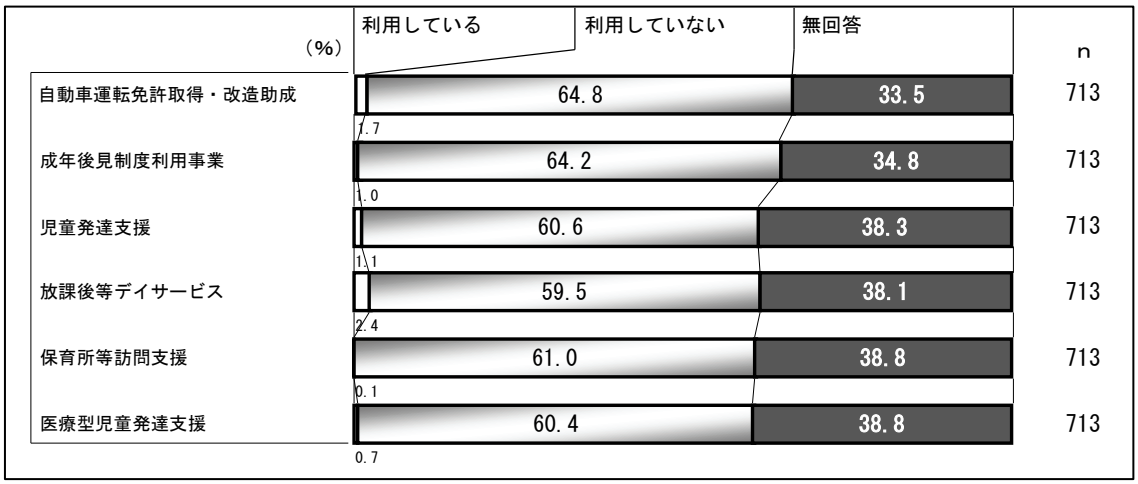
図表　サービスの利用状況について　⑨～⑯（全体）



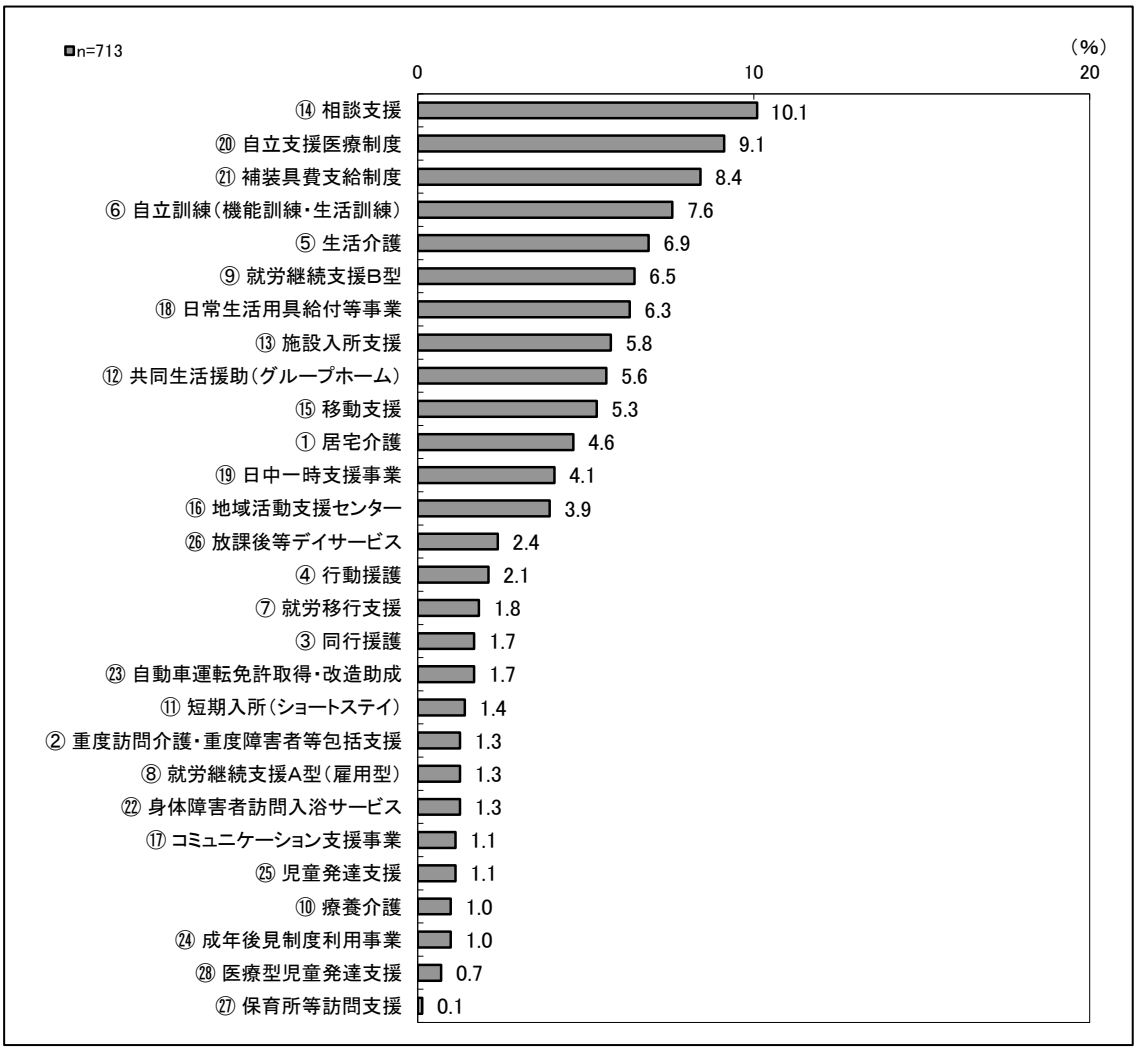
図表　サービスの利用状況について　⑰～㉒（全体）



図表　サービスの利用状況について　㉓～㉘（全体）



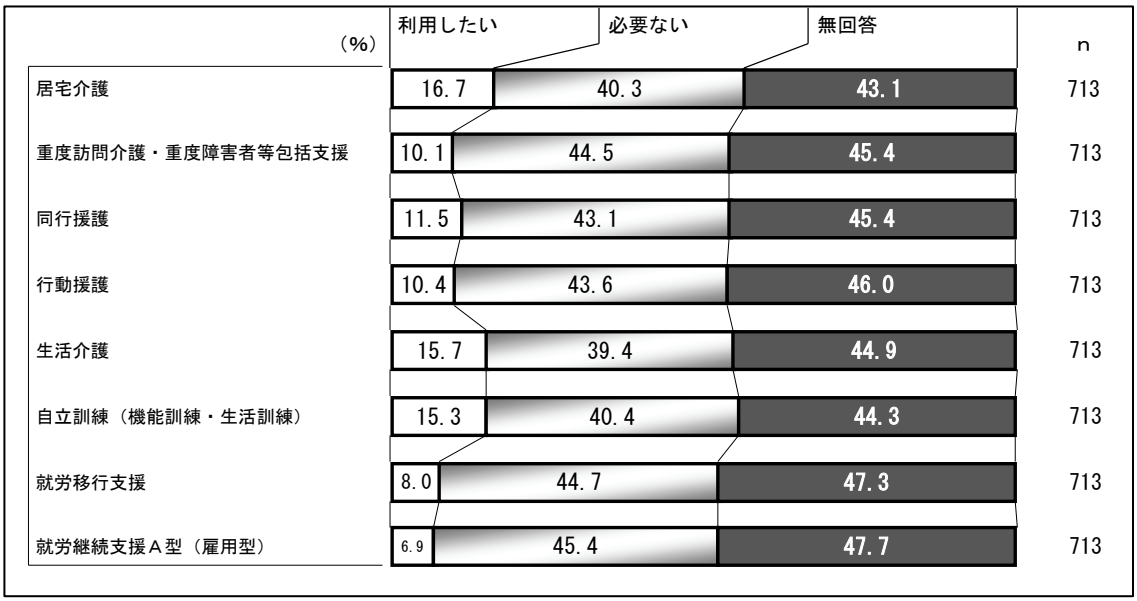
図表　「利用している」サービス（降順）



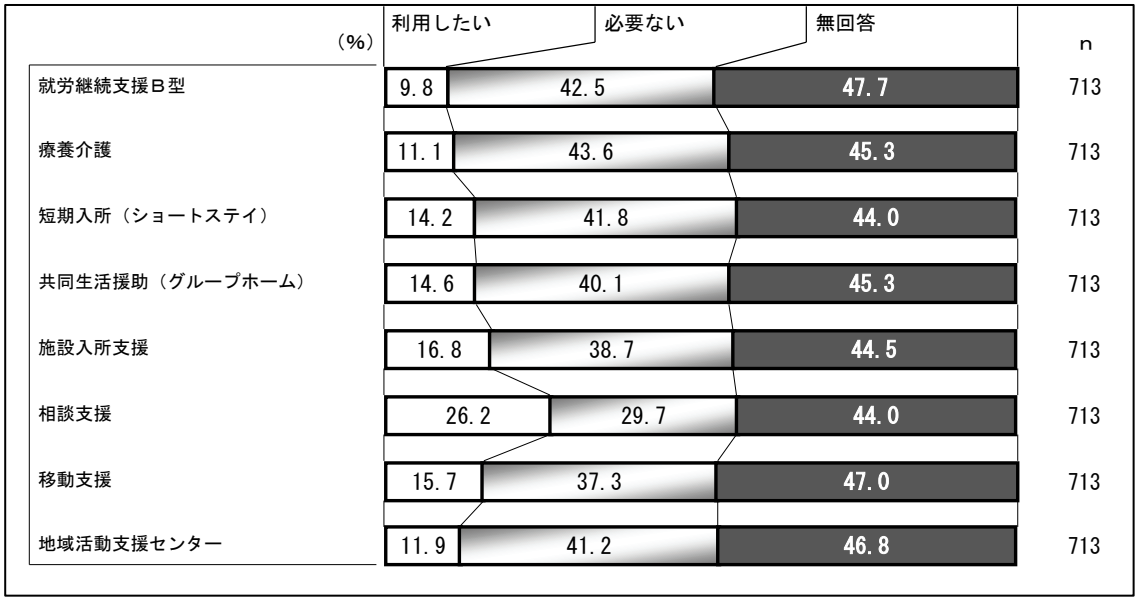
(2) 今後の利用意向

それぞれのサービスの今後の利用意向は以下のとおり。「相談支援」(26.2%) が最も多く、次いで「施設入所支援」・「自立支援医療制度」(同率 16.8%)、「居宅介護」(16.7%)、「補装具費支給制度」(16.0%) などとなっている。

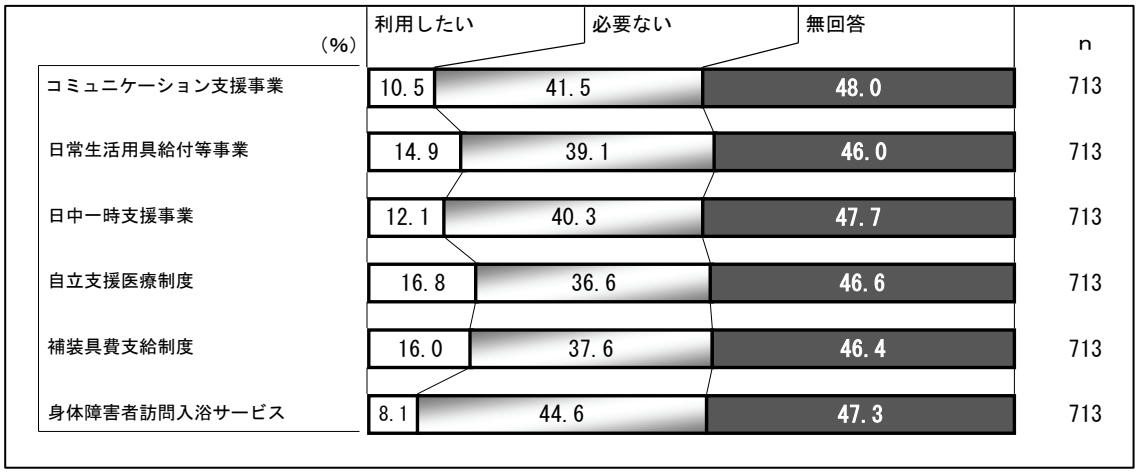
図表　サービスの利用意向について　①～⑧（全体）



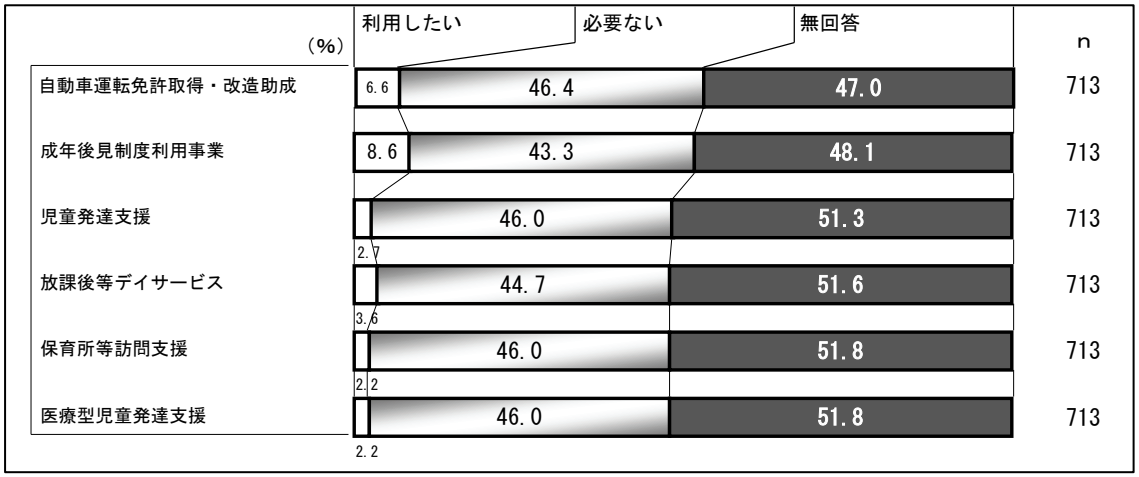
図表　サービスの利用意向について　⑨～⑯（全体）



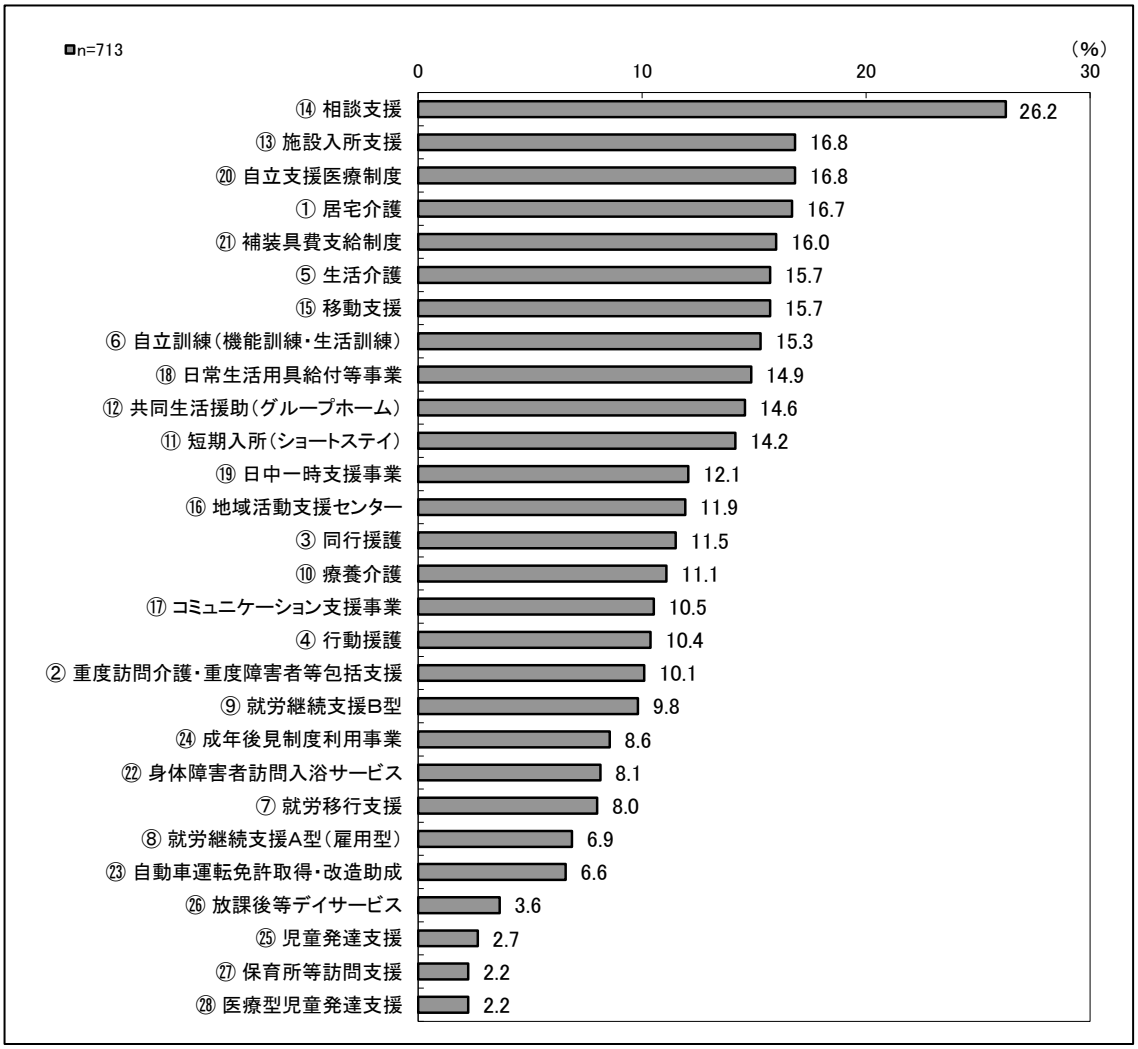
図表　サービスの利用意向について　⑰～㉒（全体）



図表　サービスの利用意向について　㉓～㉘（全体）



図表　「利用したい」サービス（降順）



８　相談相手について

（１）悩みや困ったことの相談先

問 24　あなたは普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。【複数回答】

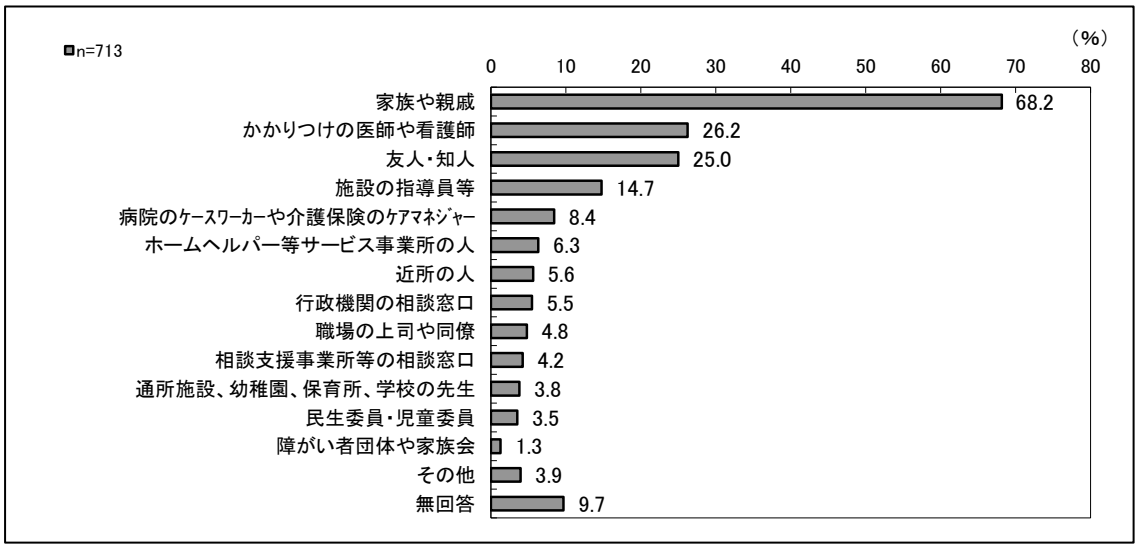
▼

● 「家族や親戚」が他を引き離して第１位。

悩みや困ったことの相談先については、「家族や親戚」(68.2%) が最も多く、次いで「かかりつけの医師や看護師」(26.2%)、「友人・知人」(25.0%)、「施設の指導員等」(14.7%)、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」(8.4%)、「ホームヘルパー等サービス事業所の人」(6.3%)、「近所の人」(5.6%)、「行政機関の相談窓口」(5.5%)、「職場の上司や同僚」(4.8%)、「相談支援事業所等の相談窓口」(4.2%)、「通所施設、幼稚園、保育所、学校の先生」(3.8%)、「民生委員・児童委員」(3.5%)、「障がい者団体や家族会」(1.3%) となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、療育手帳では「施設の指導員等」が第１位となっている。

図表　悩みや困ったことの相談先（全体／複数回答）



図表　悩みや困ったことの相談先（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		家族や親戚 68.2	かかりつけの医師や看護師 26.2	友人・知人 25.0
性別	男性	家族や親戚 64.6	かかりつけの医師や看護師 28.4	友人・知人 19.5
	女性	家族や親戚 71.4	友人・知人 29.9	かかりつけの医師や看護師 24.6
年齢	18 歳未満	家族や親戚 88.2	通所施設、幼稚園、保育所、学校の先生 70.6	かかりつけの医師や看護師 35.3
	18～29 歳	家族や親戚 70.4	施設の指導員等 37.0	かかりつけの医師や看護師 22.2
	30～49 歳	家族や親戚 58.3	施設の指導員等 33.3	かかりつけの医師や看護師 31.0
	50～64 歳	家族や親戚 61.9	友人・知人／かかりつけの医師や看護師 29.5	
	65 歳以上	家族や親戚 70.7	友人・知人／かかりつけの医師や看護師 24.6	
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	家族や親戚 72.3	かかりつけの医師や看護師 28.2	友人・知人 26.5
	療育手帳	施設の指導員等 54.5	家族や親戚 50.0	通所施設、幼稚園、保育所、学校の先生 20.5
	精神障害者保健福祉手帳	家族や親戚 63.5	かかりつけの医師や看護師 38.5	友人・知人 28.8
	自立支援医療	家族や親戚 58.8	かかりつけの医師や看護師 42.4	施設の指導員等 27.1
	いずれも持っていない	施設の指導員等／ホームヘルパー等サービス事業所の人 28.6		友人・知人／かかりつけの医師や看護師／相談支援事業所等の相談窓口 14.3

（２）障がいや福祉サービス等に関する情報の入手先

問 25　あなたは障がいのことや福祉サービス等に関する情報をどこから知ることが多いですか。【複数回答】

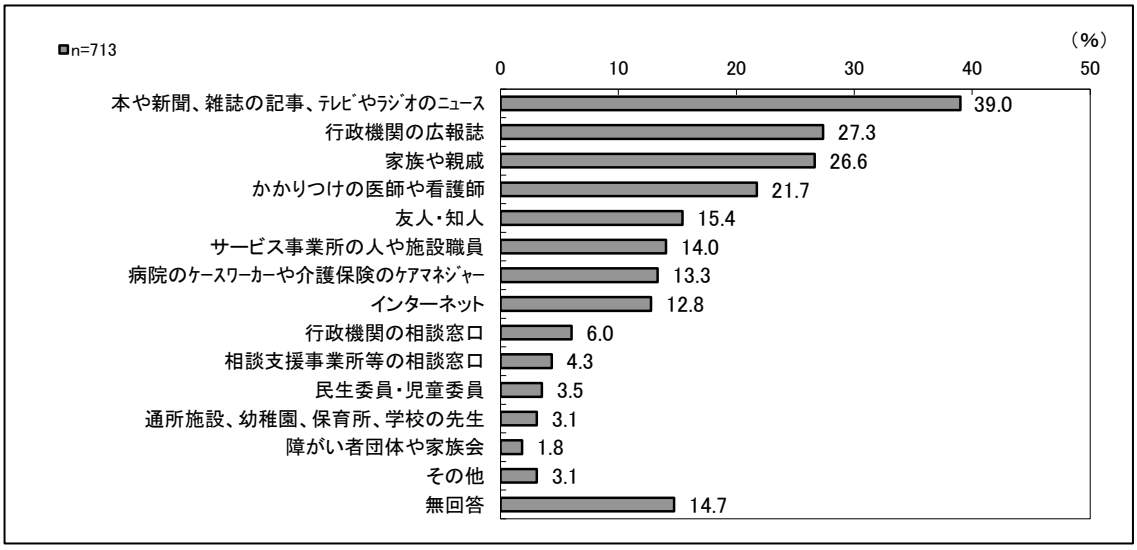
▼

● 「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が第１位。「行政機関の広報誌」、「家族や親戚」などが続く。

障がいや福祉サービス等に関する情報の入手先については「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」（39.0%）が最も多く、次いで「行政機関の広報誌」（27.3%）、「家族や親戚」（26.6%）、「かかりつけの医師や看護師」（21.7%）、「友人・知人」（15.4%）、「サービス事業所の人や施設職員」（14.0%）、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」（13.3%）、「インターネット」（12.8%）、「行政機関の相談窓口」（6.0%）、「相談支援事業所等の相談窓口」（4.3%）、「民生委員・児童委員」（3.5%）、「通所施設、幼稚園、保育所、学校の先生」（3.1%）、「障がい者団体や家族会」（1.8%）などとなっている。

年齢でみると、29 歳以下では「家族や親戚」が第１位となっている。

図表　障がいや福祉サービス等に関する情報の入手先（全体／複数回答）



図表　障がいや福祉サービス等に関する情報の入手先

（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 39.0	行政機関の広報誌 27.3	家族や親戚 26.6
性別	男性	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 40.2	行政機関の広報誌 28.7	かかりつけの医師や看護師 26.8
	女性	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 37.7	家族や親戚 28.9	行政機関の広報誌 25.9
年齢	18 歳未満	家族や親戚 58.8	通所施設、幼稚園、保育所、学校の先生 47.1	インターネット／かかりつけの医師や看護師 29.4
	18～29 歳	インターネット／家族や親戚 33.3		本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 29.6
	30～49 歳	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 41.7	インターネット 35.7	かかりつけの医師や看護師 22.6
	50～64 歳	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 47.6	行政機関の広報誌 24.8	インターネット 23.8
	65 歳以上	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 37.7	行政機関の広報誌 32.1	家族や親戚 30.0
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 40.4	行政機関の広報誌 32.3	家族や親戚 28.4
	療育手帳	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 39.3	サービス事業所の人や施設職員 34.8	家族や親戚 22.3
	精神障害者保健福祉手帳	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 51.9	かかりつけの医師や看護師 32.7	家族や親戚 23.1
	自立支援医療	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース 31.8	かかりつけの医師や看護師 28.2	サービス事業所の人や施設職員 23.5
	いずれも持っていない	サービス事業所の人や施設職員 28.6	かかりつけの医師や看護師／病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー／相談支援事業所等の相談窓口 14.3	

９　権利擁護について

（１）差別を受けたり嫌な思いをしたりすること

問 26　あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをすることがありますか。

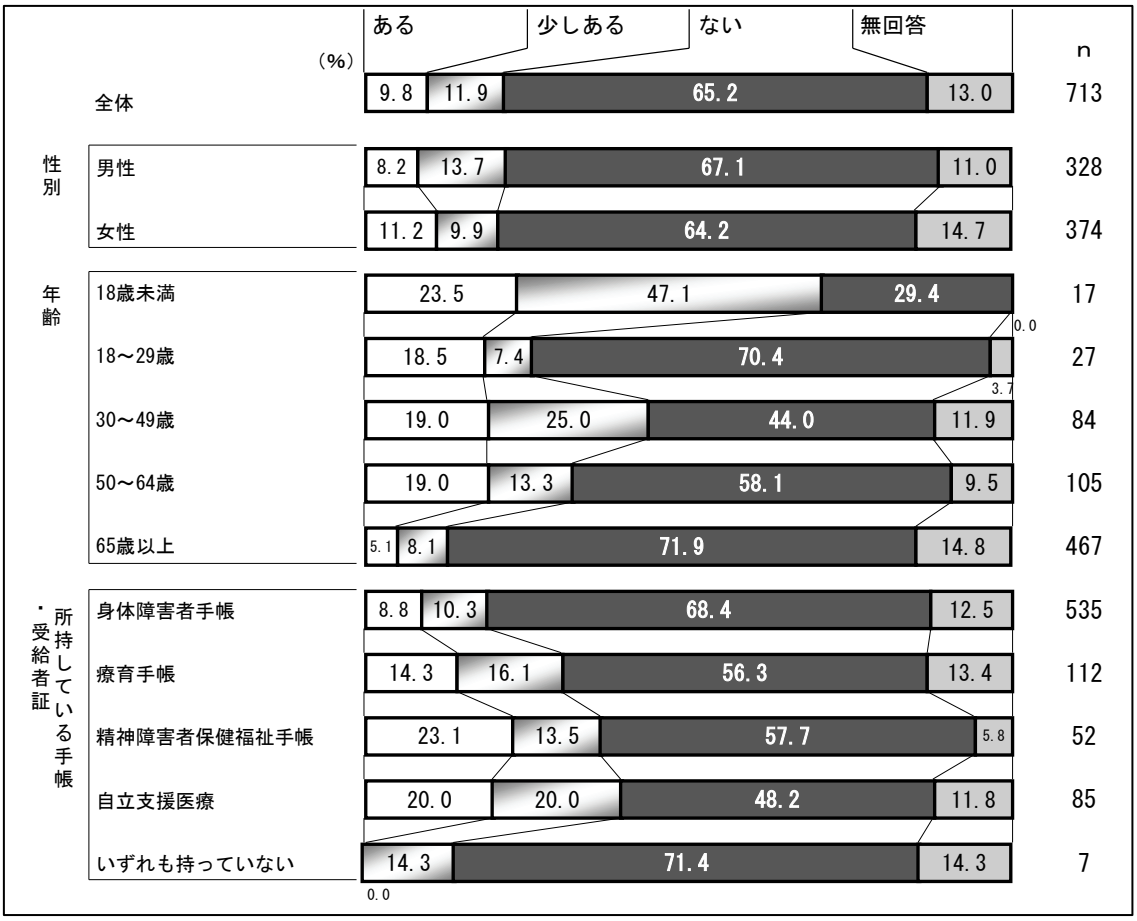
▼

● 「ない」が６割台半ばを占める。

差別を受けたり嫌な思いをしたりすることについては、「ない」が 65.2%、「少しある」が 11.9%、「ある」が 9.8%となっている。

年齢でみると、18 歳未満では「ある」と「少しある」が合わせて 70.6%となっており、他の年齢層よりも大幅に高くなっている。

図表　差別を受けたり嫌な思いをしたりすること（全体・性別・年齢・障害種別）



（２）差別を受けたり嫌な思いをしたりした場所

【問 26-1 から問 26-3 は、問 26 で「１．ある」「２．少しある」と答えた方にお聞きします。】
問 26-１　どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。【複数回答】

▼

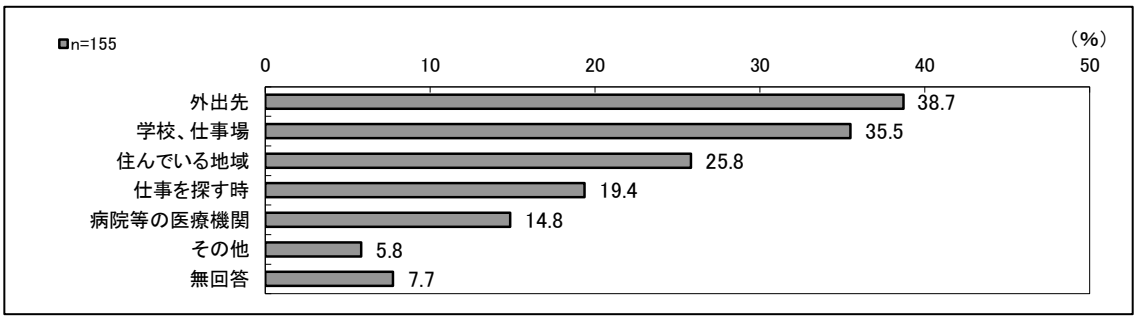
● 「外出先」が第１位。「学校、仕事場」、「住んでいる地域」などが続く。

問 26 で「１．ある」「２．少しある」と答えた人（155 人・全体の 21.7%）に、差別を受けたり嫌な思いをしたりした場所をたずねたところ、「外出先」（38.7%）が最も多く、次いで「学校、仕事場」（35.5%）、「住んでいる地域」（25.8%）、「仕事を探す時」（19.4%）、「病院等の医療機関」（14.8%）となっている。

年齢でみると、65 歳以上では「外出先」が第１位となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、精神障害者保健福祉手帳では「住んでいる地域」が第１位となっている。

図表　差別を受けたり嫌な思いをしたりした場所（全体／複数回答）



図表　差別を受けたり嫌な思いをしたりした場所

（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		外出先 38.7	学校、仕事場 35.5	住んでいる地域 25.8
性別	男性	学校、仕事場／外出先 37.5		住んでいる地域 26.4
	女性	外出先 39.2	学校、仕事場 34.2	住んでいる地域 25.3
年齢	18 歳未満	学校、仕事場 83.3	外出先 33.3	仕事を探す時／病院等の医療機関／住んでいる地域 8.3
	18～29 歳	学校、仕事場 100.0	外出先 42.9	仕事を探す時／病院等の医療機関 28.6
	30～49 歳	学校、仕事場 43.2	外出先 40.5	仕事を探す時 27.0
	50～64 歳	学校、仕事場 50.0	仕事を探す時／外出先 38.2	
	65 歳以上	外出先 38.7	住んでいる地域 32.3	病院等の医療機関 19.4
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	外出先 44.1	学校、仕事場／住んでいる地域 28.4	
	療育手帳	学校、仕事場 58.8	外出先 38.2	住んでいる地域 23.5
	精神障害者保健福祉手帳	住んでいる地域 42.1	学校、仕事場／仕事を探す時 31.6	
	自立支援医療	学校、仕事場 38.2	外出先 32.4	仕事を探す時 26.5
	いずれも持っていない	仕事を探す時 100.0		

（３）どのような理由で差別や嫌な思いをしたか

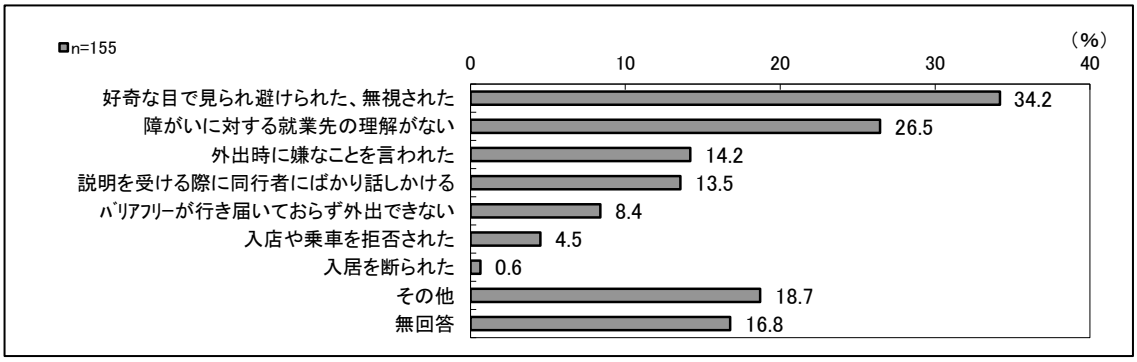
【問 26-1 から問 26-3 は、問 26 で「１．ある」「２．少しある」と答えた方にお聞きします。】
問 26-2　どのような理由で差別や嫌な思いをしましたか。【複数回答】

▼

●

問 26 で「１．ある」「２．少しある」と答えた人に、どのような理由で差別や嫌な思いをしたかたずねたところ、「好奇な目で見られ避けられた、無視された」（34.2%）が最も多く、次いで、「障がいに対する就業先の理解がない」（26.5%）、「外出時に嫌なことを言われた」（14.2%）、「説明を受ける際に同行者にばかり話しかける」（13.5%）、「バリアフリーが行き届いておらず外出できない」（8.4%）、「入店や乗車を拒否された」（4.5%）、「入居を断られた」（0.6%）などとなっている。

図表　どのような理由で差別や嫌な思いをしたか（全体／複数回答）



図表　どのような理由で差別や嫌な思いをしたか

（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		好奇な目で見られ避けられた、無視された 34.2	障がいに対する就業先の理解がない 26.5	外出時に嫌なことを言われた 14.2
性別	男性	障がいに対する就業先の理解がない 29.2	好奇な目で見られ避けられた、無視された 27.8	説明を受ける際に同行者にばかり話しかける 16.7
	女性	好奇な目で見られ避けられた、無視された 40.5	障がいに対する就業先の理解がない 25.3	外出時に嫌なことを言われた 17.7
年齢	18 歳未満	好奇な目で見られ避けられた、無視された 58.3	外出時に嫌なことを言われた／障がいに対する就業先の理解がない／説明を受ける際に同行者にばかり話しかける 16.7	
	18～29 歳	好奇な目で見られ避けられた、無視された 85.7	外出時に嫌なことを言われた／障がいに対する就業先の理解がない 28.6	
	30～49 歳	好奇な目で見られ避けられた、無視された 35.1	障がいに対する就業先の理解がない 29.7	説明を受ける際に同行者にばかり話しかける 21.6
	50～64 歳	障がいに対する就業先の理解がない 55.9	好奇な目で見られ避けられた、無視された 35.3	入店や乗車を拒否された／外出時に嫌なことを言われた／説明を受ける際に同行者にばかり話しかける 8.8
	65 歳以上	好奇な目で見られ避けられた、無視された 22.6	外出時に嫌なことを言われた 19.4	バリアフリーが行き届いておらず外出できない 11.3
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	好奇な目で見られ避けられた、無視された 27.5	障がいに対する就業先の理解がない 25.5	外出時に嫌なことを言われた 16.7
	療育手帳	好奇な目で見られ避けられた、無視された 58.8	障がいに対する就業先の理解がない／説明を受ける際に同行者にばかり話しかける 20.6	
	精神障害者保健福祉手帳	好奇な目で見られ避けられた、無視された 52.6	障がいに対する就業先の理解がない 36.8	説明を受ける際に同行者にばかり話しかける 21.1
	自立支援医療	好奇な目で見られ避けられた、無視された 38.2	障がいに対する就業先の理解がない 32.4	説明を受ける際に同行者にばかり話しかける 14.7
	いずれも持っていない	障がいに対する就業先の理解がない 100.0		

（４）障害者差別解消法について

【問 26-1 から問 26-3 は、問 26 で「１．ある」「２．少しある」と答えた方にお聞きします。】
問 26-3　あなたは、障害者差別解消法について知っていますか。

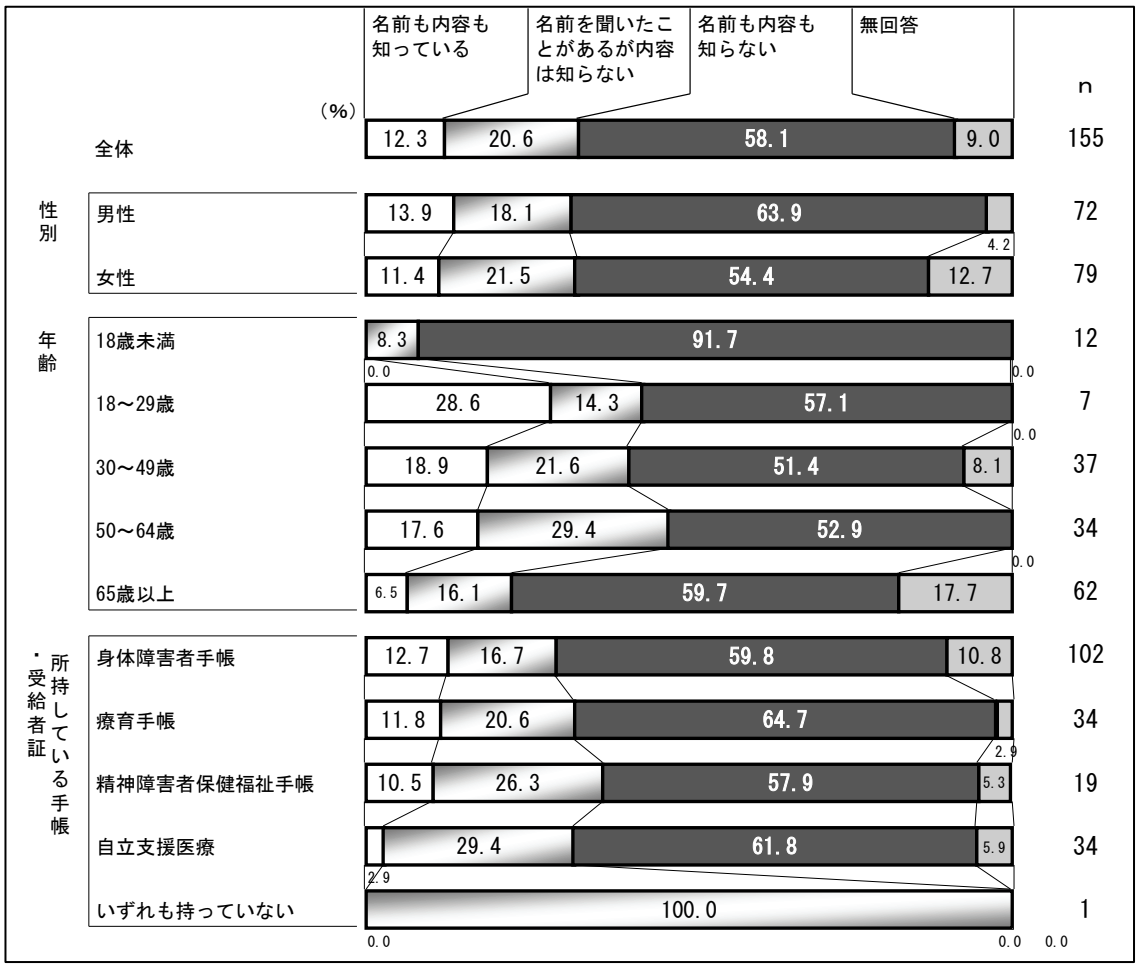
▼

● 「名前も内容も知らない」が６割弱を占める。

問 26 で「１．ある」「２．少しある」と答えた人に、障害者差別解消法を知っているかたずねたところ、「名前も内容も知らない」が 58.1%、「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が 20.6%、「名前も内容も知っている」が 12.3%となっている。

年齢でみると、18 歳未満では「名前も内容も知らない」が 91.7%を占めている。

図表　障害者差別解消法について（全体・性別・年齢・障害種別）



（５）成年後見制度について

問 27　あなたは、成年後見制度について知っていますか。

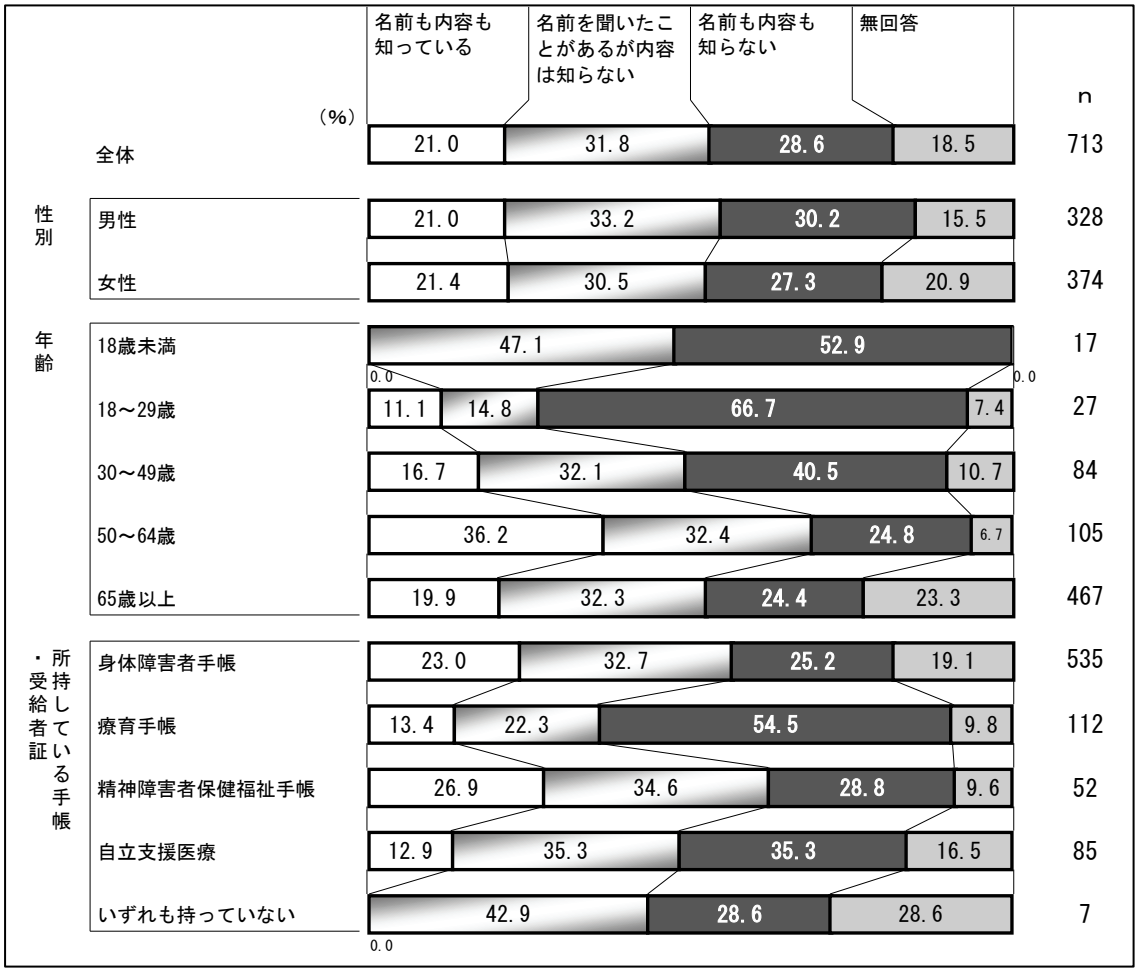
▼

● 「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が３割強、「名前も内容も知らない」が３割弱を占める。

成年後見制度については、「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が 31.8%、「名前も内容も知らない」が 28.6%、「名前も内容も知っている」が 21.0%となっている。

年齢でみると、「名前も内容も知っている」は 50～64 歳で最も高く、36.2%を占めている。

図表　成年後見制度について（全体・性別・年齢・障害種別）



10　安心・安全について

（１）火事や地震等の緊急時に一人で避難できるか

問 28　あなたは、火事や地震等の緊急時に、一人で避難することができますか。

▼

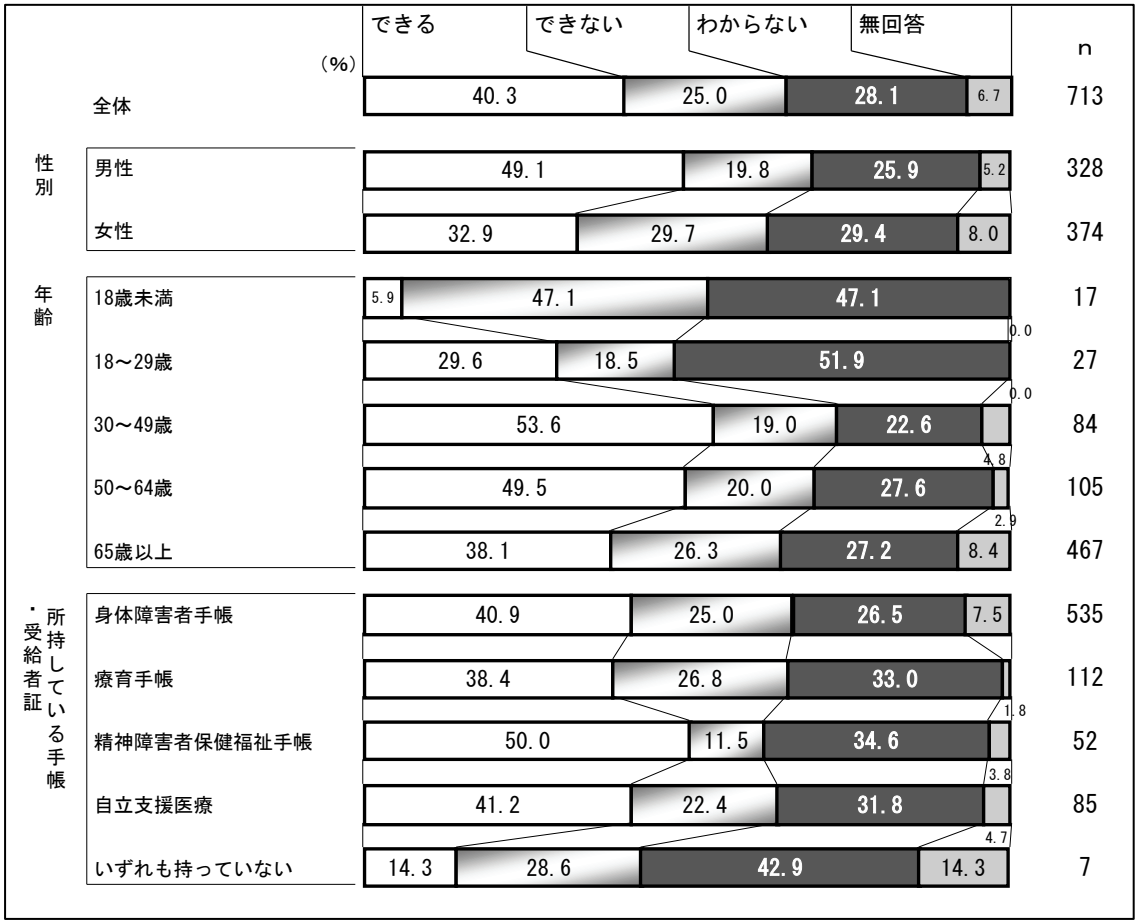
● 「できる」が４割強、「できない」が２割台半ばを占める。

火事や地震等の緊急時に一人で避難できるかについては、「できる」が 40.3%、「できない」が 25.0%となっている。なお、「わからない」は 28.1%となっている。

性別でみると、女性よりも男性の「できる」の割合が高く、49.1%となっている。

年齢でみると、30～49 歳と 50～64 歳では「できる」が５割前後を占めている。

図表　火事や地震等の緊急時に一人で避難できるか（全体・性別・年齢・障害種別）



（２）ハザードマップや避難場所の確認をしているか

問 29　あなたは、ハザードマップや避難場所の確認をしていますか。

▼

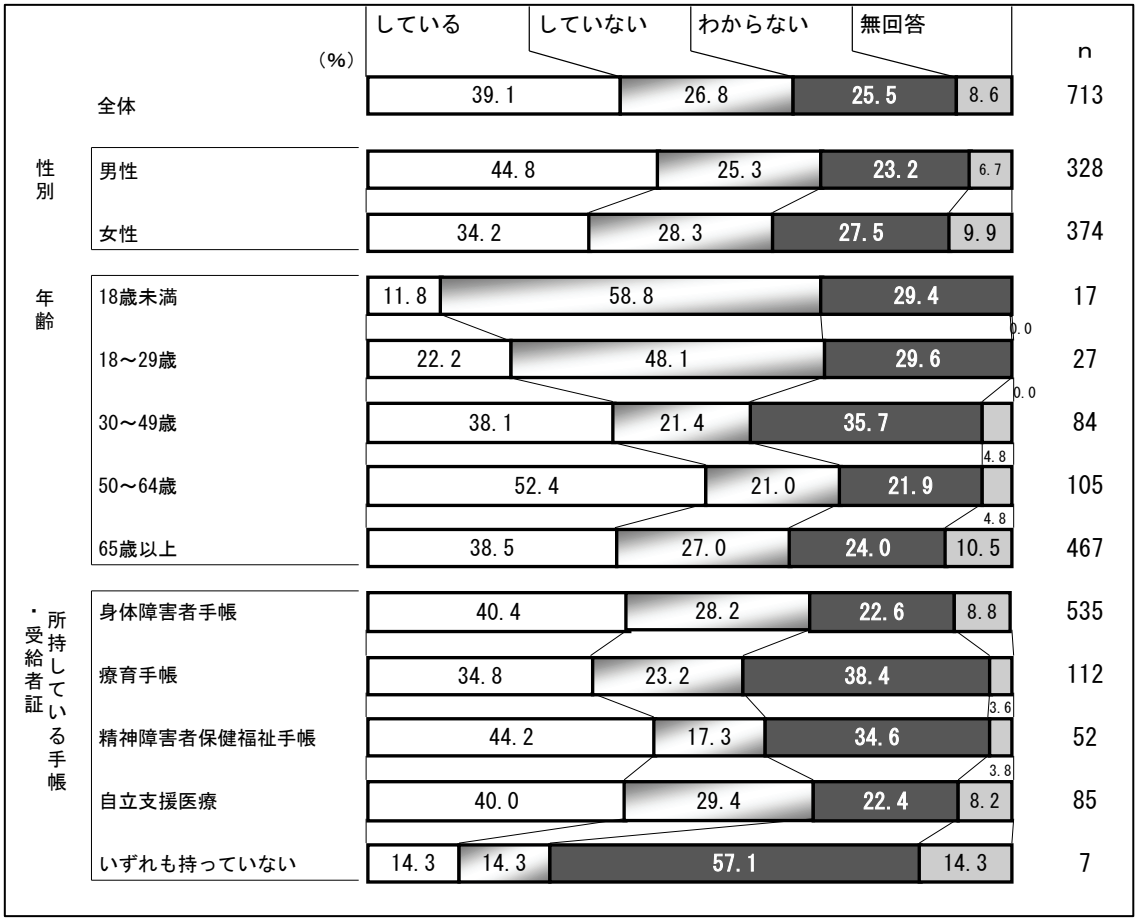
● 「している」が４割弱、「していない」が３割弱を占める。

ハザードマップや避難場所の確認をしているかについては、「している」が 39.1%、「していない」が 26.8%となっている。なお、「わからない」は 25.5%となっている。

性別でみると、男性では「している」が 44.8%を占めているのに対し、女性では 34.2%となっている。

年齢でみると、「している」の割合は 50～64 歳で 52.4%となっている。若年層では「していない」の割合が高くなっている。

図表　ハザードマップや避難場所の確認をしているか（全体・性別・年齢・障害種別）



（３）家族が不在の場合等に近所に助けてくれる人がいるか

問 30　家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

▼

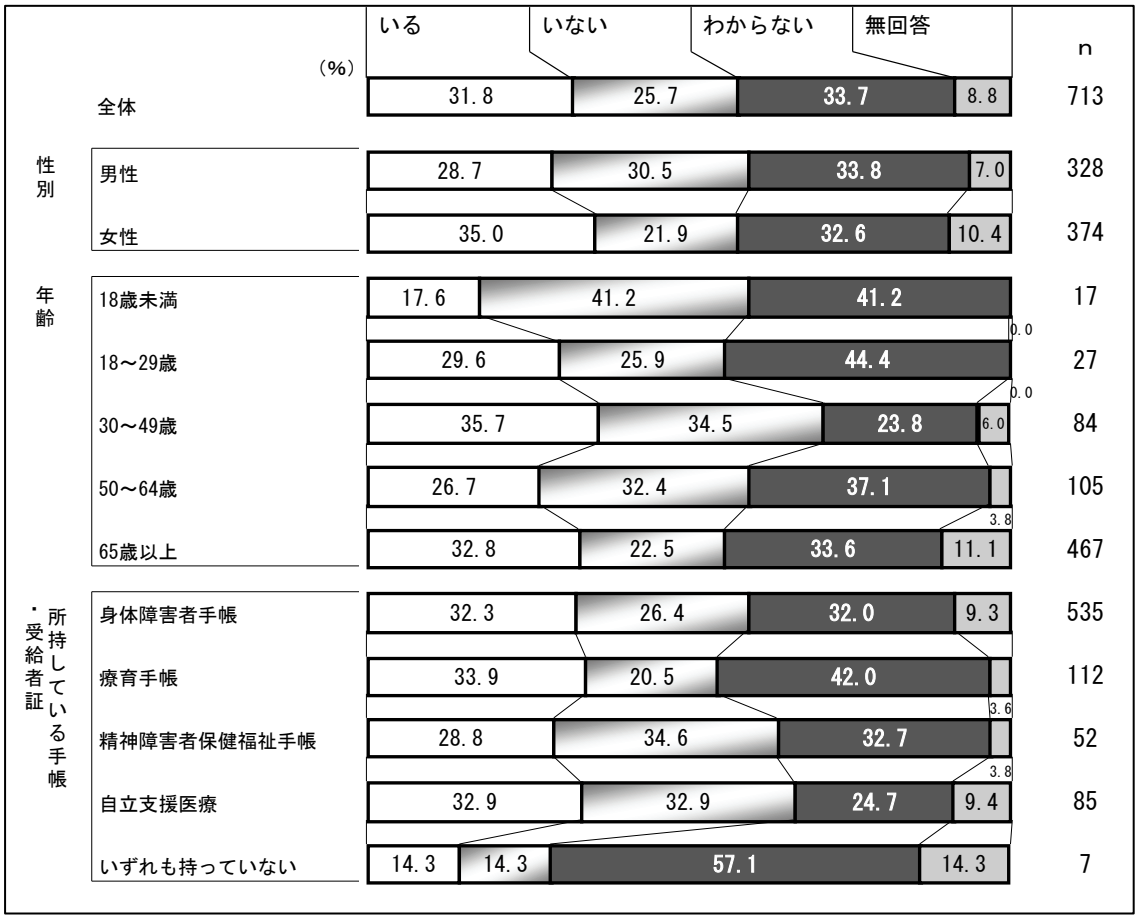
● 「いる」が３割強、「いない」が３割弱を占める。

家族が不在の場合等に近所に助けてくれる人がいるかどうかについては、「いる」が 31.8%、「いない」が 25.7%となっている。なお、「わからない」は 33.7%となっている。

性別でみると、「いる」の割合は男性よりも女性で高くなっている。

年齢でみると、18 歳未満では「いない」が 41.2%となっている。

図表　家族が不在の場合等に近所に助けてくれる人がいるか
（全体・性別・年齢・障害種別）



（４）火災や地震等の災害時に困ること

問 31　火災や地震等の災害時に困ることは何ですか。【複数回答】

▼

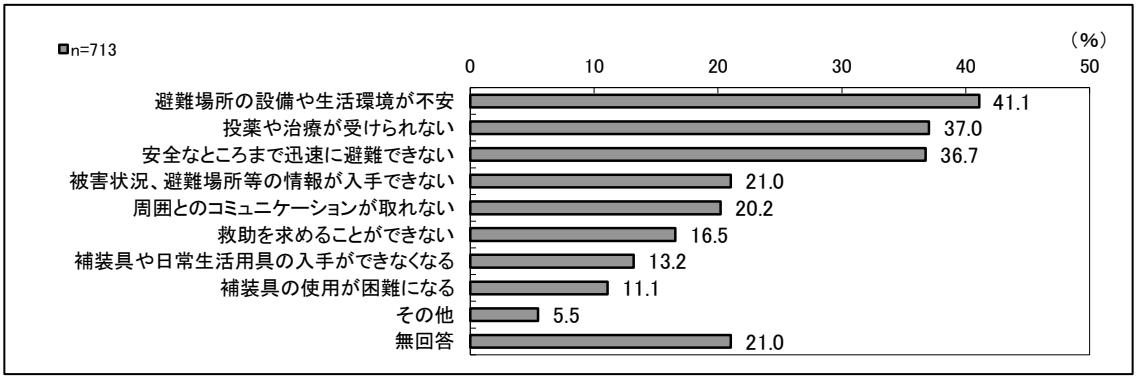
● 「避難場所の設備や生活環境が不安」が第１位。「投薬や治療が受けられない」、「安全なところまで迅速に避難できない」などが続く。

火災や地震等の災害時に困ることは、「避難場所の設備や生活環境が不安」（41.1%）が最も多く、次いで「投薬や治療が受けられない」（37.0%）、「安全なところまで迅速に避難できない」（36.7%）、「被害状況、避難場所等の情報が入手できない」（21.0%）、「周囲とのコミュニケーションが取れない」（20.2%）、「救助を求めることができない」（16.5%）、「補装具や日常生活用具の入手ができなくなる」（13.2%）、「補装具の使用が困難になる」（11.1%）となっている。

年齢でみると、18～29 歳では「周囲とのコミュニケーションが取れない」、30～39 歳では「投薬や治療が受けられない」が第１位となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療では@「投薬や治療が受けられない」が第１位となっている。

図表　火災や地震等の災害時に困ること（全体／複数回答）



図表　火災や地震等の災害時に困ること（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		避難場所の設備や生活環境が不安 41.1	投薬や治療が受けられない 37.0	安全なところまで迅速に避難できない 36.7
性別	男性	避難場所の設備や生活環境が不安 36.0	投薬や治療が受けられない 35.7	安全なところまで迅速に避難できない 30.5
	女性	避難場所の設備や生活環境が不安 44.9	安全なところまで迅速に避難できない 42.5	投薬や治療が受けられない 38.8
年齢	18 歳未満	避難場所の設備や生活環境が不安 76.5	周囲とのコミュニケーションが取れない 70.6	被害状況、避難場所等の情報が入手できない 64.7
	18～29 歳	周囲とのコミュニケーションが取れない 48.1	避難場所の設備や生活環境が不安 37.0	安全なところまで迅速に避難できない 33.3
	30～49 歳	投薬や治療が受けられない 34.5	周囲とのコミュニケーションが取れない／避難場所の設備や生活環境が不安 33.3	
	50～64 歳	避難場所の設備や生活環境が不安 41.9	投薬や治療が受けられない 38.1	安全なところまで迅速に避難できない 25.7
	65 歳以上	避難場所の設備や生活環境が不安 41.1	安全なところまで迅速に避難できない 40.7	投薬や治療が受けられない 39.2
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	避難場所の設備や生活環境が不安 42.8	投薬や治療が受けられない 41.1	安全なところまで迅速に避難できない 40.9
	療育手帳	避難場所の設備や生活環境が不安 42.0	周囲とのコミュニケーションが取れない 37.5	安全なところまで迅速に避難できない／被害状況、避難場所等の情報が入手できない／救助を求めることができない 24.1
	精神障害者保健福祉手帳	投薬や治療が受けられない 48.1	避難場所の設備や生活環境が不安 34.6	周囲とのコミュニケーションが取れない 32.7
	自立支援医療	投薬や治療が受けられない 45.9	避難場所の設備や生活環境が不安 37.6	周囲とのコミュニケーションが取れない 27.1
	いずれも持っていない	安全なところまで迅速に避難できない 42.9	投薬や治療が受けられない／被害状況、避難場所等の情報が入手できない／周囲とのコミュニケーションが取れない 14.3	

11　市への要望について

（１）富良野市は生活しやすいか

問 32　富良野市は生活しやすいですか。

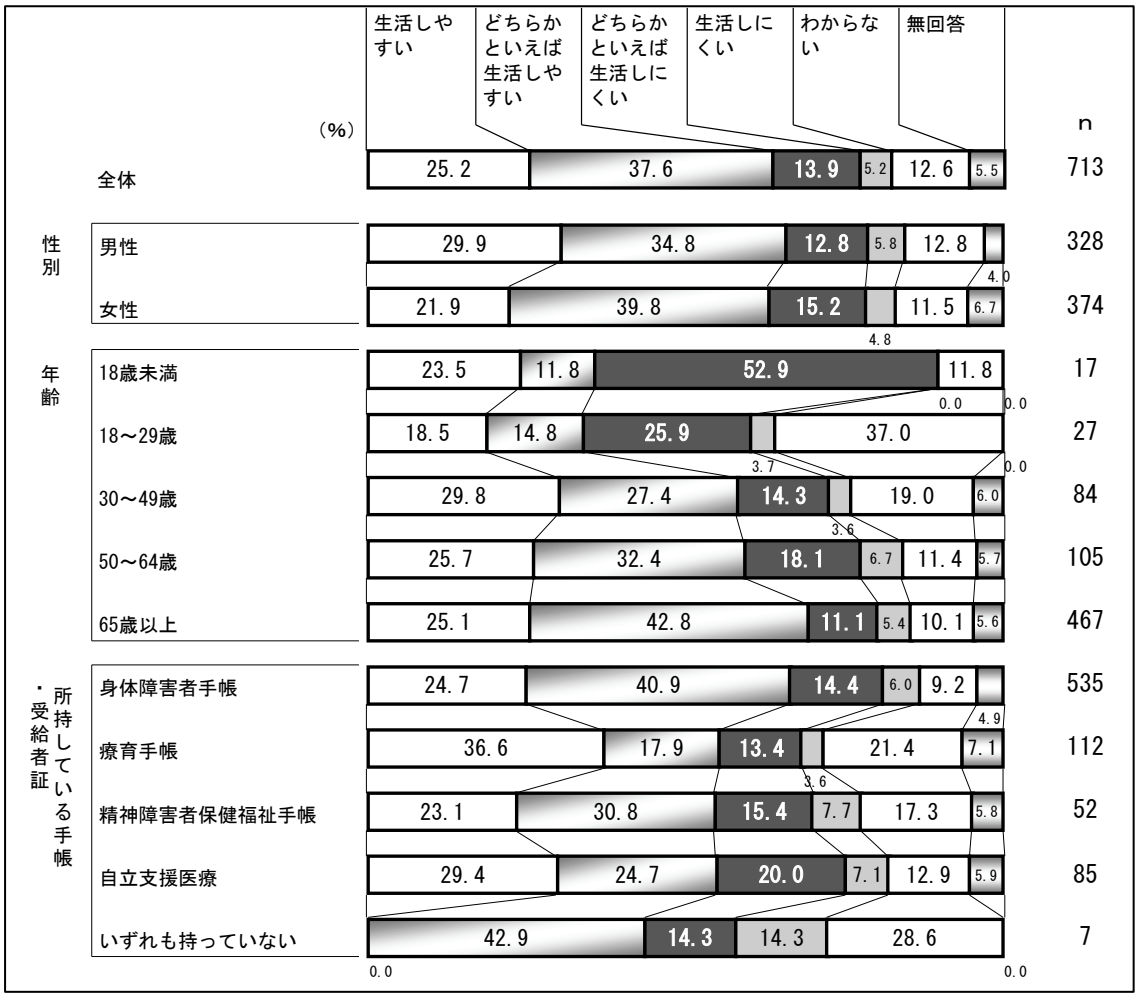
▼

● “生活しやすい”が６割強、“生活しにくい”が２割弱を占める。

富良野市は生活しやすいかたずねたところ、「どちらかといえば生活しやすい」が 37.6%で最も多く、これと「生活しやすい」（25.2%）を合わせた“生活しやすい”が 63.8%、一方“生活しにくい”（「どちらかといえば生活しにくい」（13.9%）と「生活しにくい」（5.2%）の合計）は 19.1%となっている。なお、「わからない」は 12.6%となっている。

年齢でみると、29 歳未満では“生活しやすい”が３割台にとどまっており、他の年齢層よりも大幅に低くなっている。18 歳未満では“生活しにくい”が 52.9%を占めている。

図表　富良野市は生活しやすいか（全体・性別・年齢・障害種別）



（２）今後市にしてほしいと思うこと

問 33　今後、富良野市にしてほしいと思うことは何ですか。【複数回答】

▼

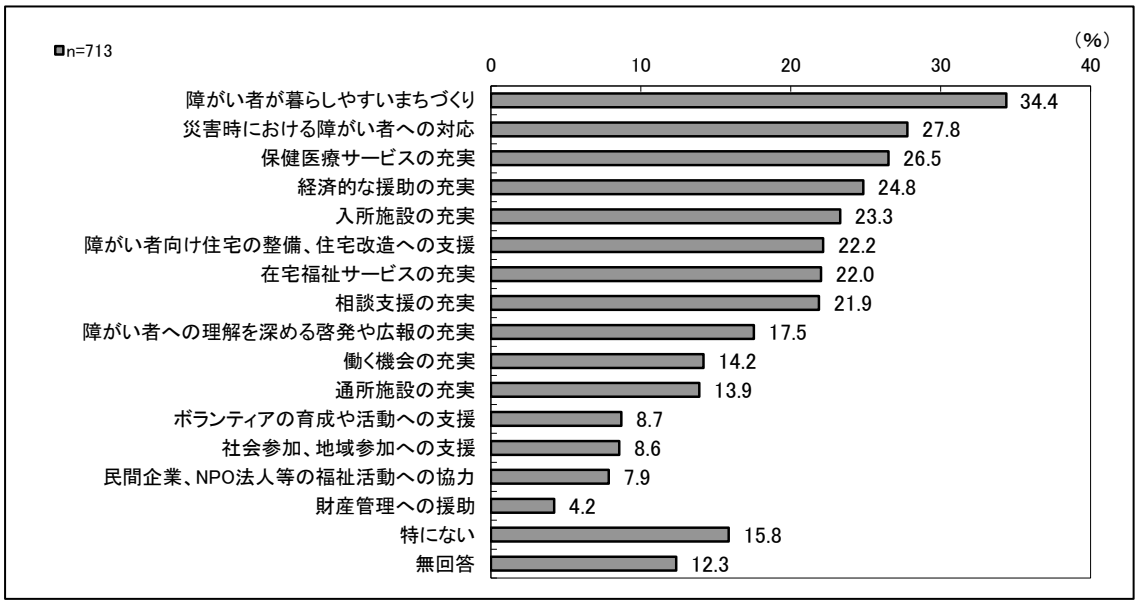
● 「障がい者が暮らしやすいまちづくり」が第１位。「災害時における障がい者への対応」、「保健医療サービスの充実」などが続く。

今後市にしてほしいと思うことは、「障がい者が暮らしやすいまちづくり」（34.4%）が最も多く、次いで「災害時における障がい者への対応」（27.8%）、「保健医療サービスの充実」（26.5%）、「経済的な援助の充実」（24.8%）、「入所施設の充実」（23.3%）、「障がい者向け住宅の整備、住宅改造への支援」（22.2%）、「在宅福祉サービスの充実」（22.0%）、「相談支援の充実」（21.9%）、「障がい者への理解を深める啓発や広報の充実」（17.5%）、「働く機会の充実」（14.2%）、「通所施設の充実」（13.9%）、「ボランティアの育成や活動への支援」（8.7%）、「社会参加、地域参加への支援」（8.6%）、「民間企業、NPO 法人等の福祉活動への協力」（7.9%）、「財産管理への援助」（4.2%）などとなっている。なお、「特にない」は 15.8%となっている。

性別、年齢でみると、いずれの属性でも「障がい者が暮らしやすいまちづくり」が第１位となっている。18 歳から 49 歳では「働く機会の充実」が第２位となっている。

所持している手帳・受給者証でみると、精神障害者保健福祉手帳と自立支援医療では「経済的な援助の充実」が第１位となっている。

図表　今後市にしてほしいと思うこと（全体／複数回答）



図表　今後市にしてほしいと思うこと（全体・性別・年齢・障害種別／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		障がい者が暮らしやすいまちづくり 34.4	災害時における障がい者への対応 27.8	保健医療サービスの充実 26.5
性別	男性	障がい者が暮らしやすいまちづくり 33.2	保健医療サービスの充実 25.6	災害時における障がい者への対応 25.0
	女性	障がい者が暮らしやすいまちづくり 35.6	災害時における障がい者への対応 29.9	保健医療サービスの充実 27.0
年齢	18 歳未満	障がい者が暮らしやすいまちづくり 70.6	障がい者への理解を深める啓発や広報の充実 58.8	相談支援の充実 52.9
	18～29 歳	障がい者が暮らしやすいまちづくり 44.4	働く機会の充実 37.0	災害時における障がい者への対応 33.3
	30～49 歳	障がい者が暮らしやすいまちづくり 44.0	働く機会の充実 33.3	経済的な援助の充実 32.1
	50～64 歳	障がい者が暮らしやすいまちづくり 42.9	経済的な援助の充実 34.3	障がい者向け住宅の整備、住宅改造への支援／相談支援の充実 30.5
	65 歳以上	障がい者が暮らしやすいまちづくり 29.3	保健医療サービスの充実 27.8	災害時における障がい者への対応 27.0
所持している手帳・受給者証	身体障害者手帳	障がい者が暮らしやすいまちづくり 33.8	災害時における障がい者への対応 29.5	保健医療サービスの充実 28.6
	療育手帳	障がい者が暮らしやすいまちづくり 42.9	入所施設の充実 25.9	障がい者への理解を深める啓発や広報の充実 25.0
	精神障害者保健福祉手帳	経済的な援助の充実 36.5	働く機会の充実 30.8	障がい者が暮らしやすいまちづくり 28.8
	自立支援医療	経済的な援助の充実 40.0	障がい者が暮らしやすいまちづくり 35.3	働く機会の充実 32.9
	いずれも持っていない	経済的な援助の充実／財産管理への援助 28.6		入所施設の充実／通所施設の充実／障がい者が暮らしやすいまちづくり／相談支援の充実／災害時における障がい者への対応 14.3